



インストールガイド Windows版

IBM Rational Synergy
インストール ガイド Windows 版
リリース 7.1a

本書をご使用になる前に、77 ページの「特記事項」に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Rational Synergy（製品番号 5724V66）バージョン 7.1a および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

© Copyright IBM Corporation 1992, 2009.

目次

はじめに	1
Readme	1
旧リリースからのアップグレード.....	1
本リリースの概要.....	1
インストール関連の機能のアップデート	1
Rational Synergy 7.1a によってインストールされるインターフェイス	2
リリースの互換性	2
ユーザーの前提条件.....	3
IBM Rational ソフトウェア サポートへの問い合わせ	3
前提条件	3
問題報告について	4
その他の情報	6
ガイドで使用する表記規則.....	7
Rational Synergy のドキュメント	7
用語解説	9
Rational Synergy	
インストール チェックリスト	13
インストール前の作業.....	13
インストール.....	14
ライセンス	14
ディレクトリサービス	14
Rational Synergy	14
インストール後の作業.....	15
トラブルシューティング.....	16
インストール前の作業	17
インストール対象.....	17
カスタマーサイトごとにインストールするもの.....	17
ユーザーごとにインストールするもの	18
サーバー インストール計画	19

メインと追加 Windows サーバー マシンの要件	20
メインおよび追加 Windows サーバー用の領域要件	22
クライアント インストール計画	24
クライアント マシンの要件	24
クライアント領域構成	25
システムの準備	26
ディスク領域注意事項	26
Services ファイルの確認	27
Rational Synergy アドミニストレータの作成	27
Rational License Server TL のインストール	28
Rational Directory Server のインストール	28
サーバーのインストール	29
サーバー ソフトウェアをインストールする前に	29
Rational Synergy Windows サーバーのインストール	30
メイン Windows サーバーのインストール	31
次に行うインストール	50
自動更新プロセスのガイドライン	50
追加 Windows サーバーのインストール	51
次に行うインストール	63
自動更新プロセスのガイドライン	64
カスタム インストールの実行	65
カスタム インストールの例：エンジン	67
次に行うインストール	69
サーバー ソフトウェアのインストール後	69
クライアント インストールの自動アップグレード	69
クライアントのインストール	71
Rational Synergy クライアント	71
自動更新プロセスのガイドライン	71
コンパクトクライアントのインストール	72
付録：特記事項	77
商標	79

1

はじめに

この章では、IBM® Rational® Synergy を Windows® オペレーティング システムにインストールする前に知っておくべきことについて説明します。

Readme

IBM Rational Synergy Readme ファイルは、このリリースの新機能やサポートされているハードウェアとオペレーティング システムのリストなど、Rational Synergy ソフトウェアの最新情報を提供しています。ソフトウェアをインストールする前に、この情報を確認してください。IBM Rational Synergy Readme は、[IBM Rational Software Information Center](#) に用意されています。

注記：Readme は、最新情報を提供するため、必要に応じて更新および再発行されます。常に最新バージョンを確認するため、IBM Rational Software Information Center から電子版をダウンロードしてください。

旧リリースからのアップグレード

既存の Rational Synergy サーバーおよびデータベースを Rational Synergy の最新リリースにアップグレードできます。アップグレード手順については、『IBM Rational Synergy アップグレード ガイド Windows 版』を参照してください。この手順説明は、[IBM Rational Software Information Center](#) に用意されています。

本リリースの概要

インストール関連の機能のアップデート

Rational Synergy 7.1a のインストールに関連して以下の機能が変更されました。

- Windows スタート メニューパス
Rational Synergy は Windows タスクバーの **スタート > すべてのプログラム > IBM Rational > IBM Rational Synergy 7.1a** からアクセスできます。
- Rational Synergy コマンド実行用ウィンドウを開くためのショートカット
Rational Synergy コマンド実行用のウィンドウを開くには、Windows タスクバーで、**スタート > すべてのプログラム > IBM Rational > IBM Rational Tools > IBM Rational Synergy 7.1a > CM Command Prompt** をクリックします。ただし、このパス名は、インストールの際にデフォルトのプログラムフォルダを使用したことを前提にしています。
- 標準クライアントのインストール オプションは削除されました

推奨されるクライアントはコンパクトクライアントになりました。これに伴って標準クライアントのインストール オプションは削除されました。エンジン サービスがクライアント システムで必要な場合は、**カスタム**オプションを使用してエンジン サービスをインストールしてください。

Rational Synergy 7.1a によってインストールされるインターフェイス

Windows 版 Rational Synergy は、以下のグラフィカル ユーザー インタフェースを提供します。

- **Rational Synergy**

このインターフェイスは、旧リリースでは開発者用 Rational Synergy と呼ばれていました。これは、*developer* または *build_manager* ロールのユーザー向けインターフェイスです。日常の開発作業用とビルド管理作業用の機能が用意されています。

- **Synergy Classic**

このインターフェイスは、旧バージョンでは「オリジナル クライアント」と呼ばれていた。CM アドミニストレータおよび DCM アドミニストレータ向けの機能が用意されています。

リリースの互換性

本リリースの主な特徴は、以下のとおりです。

- Rational Synergy は、クライアント、エンジン、およびデータベースがすべて同じリリースまたはサービスパックの場合のみ実行できます。異なるリリースまたはサービスパックの Rational Synergy のコンポーネントは、一緒に使用できません。
- Rational Synergy を実行するには、IBM® Rational® License Server TL をインストールする必要があります。
- Rational Synergy を実行するには、IBM® Rational® Directory Server をインストールする必要があります。
- Windows クライアントは UNIX および Windows サーバーとともに使用できます。
- UNIX クライアントは UNIX サーバーとのみ使用できます。
- クライアントが 7.1a データベースにアクセスできるようにするには、事前に Windows クライアントで Rational Synergy リリース 7.1a を使用可能にする必要があります。

Rational Synergy 7.1a は Rational Change 5.2 以降と互換性があります。Rational Change を使用している場合、Rational Synergy 7.1a にアップグレードすると同

時に Rational Change 5.2 またはそれ以降にアップグレードする必要があります

ユーザーの前提条件

メインサーバーをインストールするには、以下の知識が必要です。

- ローカル管理権限、ドメイン管理権限を含む Windows システム管理の知識があること。
- 使用環境のハードウェアインフラとネットワークトポロジーの知識があること。
- プロジェクトでの Rational Synergy の利用方法についての知識があること。

コンパクトクライアントをインストールするには、72 ページの「コンパクトクライアントのインストール」に記述されている権限と許可が必要です。

IBM Rational ソフトウェア サポートへの問い合わせ

お手持ちのリソースで、問題が解決されない場合は、IBM®Rational® ソフトウェア・サポートに連絡してください。IBM® Rational® ソフトウェア・サポートでは、製品の問題解決に関する支援を行っています。

前提条件

IBM Rational ソフトウェア・サポートに問題を送信するには、有効な Passport Advantage® ソフトウェア保守契約が必要です。パスポート・アドバンテージは、IBM の包括的ソフトウェア・ライセンスおよびソフトウェア保守 (製品のアップグレードおよび技術支援) オファリングです。次のサイトからオンラインでパスポート・アドバンテージに登録できます。<http://www.ibm.com/software/lotus/passportadvantage/howtoenroll.htm>

- パスポート・アドバンテージについて詳しくは、パスポート・アドバンテージ FAQ (http://www.ibm.com/software/lotus/passportadvantage/brochures_faqs_quickguides.html) にアクセスしてください。
- さらに支援が必要な場合は、IBM 担当員に連絡してください。

問題をオンラインで (IBM Web サイトから) IBM Rational ソフトウェア・サポートに送信するには、さらに以下が必要です。

- IBM Support Web サイトの登録ユーザーであること。登録について詳しくは、<http://www-01.ibm.com/software/support/> を参照してください。
- 許可された呼び出し元としてサービス要求ツールにリストされていること。

問題報告について

次のようにして、**IBM Rational** ソフトウェア・サポートに問題を送信します。

1. お客様の問題のビジネス・インパクトを判別します。**IBM** へ問題を報告する際は、重大度レベルを問われます。そのため、報告する問題とそのビジネス・インパクトを理解して、評価する必要があります。

重大度のレベルを決めるにあたっては、下表を参照してください。

重大度	説明
1	問題は危機的なビジネス・インパクトを持ちます。プログラムを使用できず、業務に重大な影響が出ています。この状況には、即時に解決策が必要とされます。
2	問題は、重大なビジネス・インパクトを持ちます。プログラムは使用可能ですが、非常に限定されています。
3	問題は部分的なビジネス・インパクトを持ちます。プログラムは使用可能ですが、比較的重要でない(業務に大きな影響はない)機能が利用できません。
4	問題はわずかなビジネス・インパクトを持ちます。問題による業務への影響がほとんどないか、問題に対する有効な回避策が実施済みです。

2. 問題を説明して、背景情報を収集します。**IBM** に問題を説明する際は、なるべく具体的に説明してください。**IBM Rational** ソフトウェア・サポートの専門家が、問題を解決するために効果的な支援をできるように、関連するすべての背景情報を含めてください。時間を節約するために、以下の質問の答えを用意してください。

- 問題の発生時に実行していたソフトウェア（複数可）のバージョンは何ですか？

次のオプションを使用して、正確な製品名とバージョンを判別することができます。

IBM Installation Manager を始動して、「ファイル」>「インストール済みパッケージの表示」を選択します。パッケージ・グループを展開し、パッケージを選択して、パッケージ名およびバージョン番号を確認します。

製品を始動して、「ヘルプ」>「製品情報」をクリックし、オフライン名とバージョン番号を確認します。

- オペレーティング・システムおよびバージョン番号（サービス・パックまたはパッチを含む）は何ですか？

- 問題の症状に関連するログ、トレース、およびメッセージはありますか？
 - 問題を再現できますか？再現できる場合は、問題を再現するための手順は何ですか？
 - システムに変更を加えましたか？例えば、ハードウェア、オペレーティング・システム、ネットワーキング・ソフトウェア、またはその他のシステム・コンポーネントに変更を加えましたか？
 - 現在、問題に対する何らかの回避策を使用していますか？使用している場合は、問題の報告時にその回避策も説明する準備をお願いします。
3. IBM Rational ソフトウェア・サポートに問題を送信します。次の方法で、IBM ソフトウェア・サポートに問題の送信ができます。
- オンラインの場合：IBM Rational ソフトウェア・サポートの Web サイト (<https://www.ibm.com/software/rational/support/>) にアクセスして、Rational サポート・タスク・ナビゲーターで「サービス要求を開く (Open Service Request)」をクリックします。エレクトロニック問題報告ツールを選択し、「問題管理レコード (PMR) (Problem Management Record (PMR))」を開き、問題についてご自身の言葉で正確に記述してください。
 - サービス要求を開く方法について詳しくは、<http://www.ibm.com/software/support/help.html> にアクセスしてください。
 - IBM Support Assistant を使用してオンラインのサービス要求を開くこともできます。詳しくは、<http://www-01.ibm.com/software/support/isa/faq.html> を参照してください。
 - 電話の場合：国または地域別の電話番号を調べるには、<http://www.ibm.com/planetwide/> の「IBM directory of worldwide contacts」で、お住まいの国名または地域名をクリックします。
 - IBM 担当員に依頼する場合：オンラインまたは電話で IBM Rational ソフトウェア・サポートにアクセスできない場合は、IBM 担当員に連絡してください。必要な場合は、お客さまに代わって、IBM 担当員がサービス要求を開くことができます。<http://www.ibm.com/planetwide/> で、各国への詳しい連絡先情報を検索できます。

送信した問題が、ソフトウェアの障害に関するものか、資料の欠落や不正確な記述によるものである場合は、IBM ソフトウェア・サポートはプログラム診断依頼書 (APAR) を作成します。APAR には、問題の詳細が記述されます。IBM ソフトウェア・サポートは可能な限り、APAR が解決されてフィックスが提供されるまでの間に実施できる回避策を提供します。IBM は、同一の問題を経験している他のユーザーが同じ解決方法を利用できるように、ソフト

ウェア・サポート Web サイトに解決済みの APAR を公開し、毎日更新しています。

その他の情報

Rational ソフトウェア製品ニュース、イベント、およびその他の情報については、[IBM Rational Software Web Site](#) を参照してください。

ガイドで使用する表記規則

下表に、このガイドで使用している書体と記号の規則を示します。

書体	説明
イタリック	ロール (<i>developer</i>)、状態 (<i>working</i>)、グループ (<i>ccm_root</i>) およびユーザー (<i>john</i>) の名前を表します。
太字	メニュー名、ダイアログボックスのオプションと表題、および強調するときに表示します。
Courier	コマンド、ファイル名、ディレクトリパスに使用されます。表示どおりに入力するコマンド構文を表します。また画面上に表示されるコンピュータ出力、属性 (<i>modify_time</i>)、コマンド (<i>ccm start</i>)、関数 (<i>remote_type</i>)、およびタイプ (<i>csrc</i>) の名前を示します。
<i>Courier Italic</i>	ユーザーが指定するコマンド文字列内の値を示します。たとえば、 <i>drive:¥username¥commands</i>

このドキュメントには以下の表記規則も含まれます。

注記：注意すべき情報を示します。

注意！守らないとデータベースまたはシステムに重大な被害を及ぼす可能性のある情報を示します。

Rational Synergy のドキュメント

特に指定されている場合を除いて、Rational Synergy ドキュメントは、[IBM Rational Software Information Center](#) サイト、および Rational Synergy 製品とともに提供される DVD に用意されています。

2

用語解説

このガイドで説明している操作を実行するには、以下の用語とその意味を理解している必要があります。

Rational Directory Server

Rational Directory Server は、ユーザー認証と IBM Rational Solution for Enterprise Lifecycle Management ツールのための単一エンタープライズディレクトリソリューションです。Rational Directory Server を使用すると、ユーザーはアクセスを許可されている複数のツールについて、同じ証明書でログオンできます。

Rational License Server TL

ライセンス サーバーはユーザーからの Rational Synergy データベースへのアクセスが妥当かどうかを判定します。ライセンスの管理は、FLEXnet を使用して行います。ネットワークインストールごとに 1 つのライセンスサーバーを、ライセンス発行対象であるマシン上で、実行する必要があります。

Rational Synergy CCM

サーバー

Rational Synergy CCM サーバーは、ウェブ ベースの Rational Synergy ヘルプ、Windows クライアントのインストールイメージ、Windows クライアント用の自動更新プロセスのホストとして機能します。ウェブモードクライアントもサポートします。Rational Synergy CCM サーバーの詳細については、『IBM Rational Synergy 管理者ガイド Windows 版』の「CCM サーバーの管理」の項を参照してください。

Rational Synergy

クライアント

Rational Synergy クライアントは、ユーザー インターフェイス プロセスです。

Rational Synergy

サーバー

Rational Synergy サーバーは、データベース サーバー、エンジン、クライアント、ライセンス マネージャ、オブジェクトレジストラ、ルーター、管理ツール、ウェブ サーバーなど、すべての Rational Synergy コンポーネントのホストとして

機能します。エンジンサーバーはエンジンプロセスをホストする物理サーバーです。

Rational Synergy

データベース

Rational Synergy データベースは、制御ファイル、変更依頼、およびそれらのプロパティを格納する、オブジェクト指向のリポジトリです。ファイルのプロパティには、ソースと作成日時、他のファイルとの関連などの多数のプロパティが含まれています。

Rational Synergy

データベースサーバー

データベースサーバーは、**Rational Synergy** データベースのホストとして機能します。

エンジン サーバー	エンジン サーバーは、 Rational Synergy クライアントと Rational Synergy データベース間の通信を行うエンジンプロセスのホストとして機能します。エンジンサーバーはエンジンプロセスをホストする物理サーバーです。
オブジェクト レジストラ	オブジェクト レジストラは、各ユーザーのデータベースの表示を常に最新の状態に維持するため、 Rational Synergy のデータベース オブジェクトの変更をすべて追跡して通知します。データベース ホストごとに1つのオブジェクト レジストラを実行する必要があります。
ルーター	ルーターは、 CM プロセス間の通信を管理します。ネットワーク インストールごとに1つのルーターを実行する必要があります。
ワークエリア	ワークエリアは、ファイルをチェックアウトしたときに Rational Synergy によってファイルがコピーされるファイルシステム内の場所です。ワークエリアはネットワーク ファイル システム内の任意の場所に確保できます。 ファイルを更新すると、 Rational Synergy はワークエリア内の変更をデータベースと同期させます。

3

Rational Synergy インストールチェックリスト

Rational Synergy をインストールして実行するには、以下に示した手順をチェックリストとして使用してください。

インストール前の作業

Rational Synergy ソフトウェア インストールの準備

- 1 ページの「はじめに」を読みます。
- Rational Synergy Readme を確認します。
- 17 ページの「インストール前の作業」を読みます。特に、19 ページの「サーバー インストール計画」と 24 ページの「クライアントインストール計画」の内容に注意します。
- 計画ワークシートの必要項目に記入します。

サーバーインストールの領域を計画する方法は、22 ページの「メインおよび追加 Windows サーバー用の領域要件」を参照してください。

クライアントインストールの領域を計画する方法は、25 ページの「クライアント領域構成」を参照してください。

- 前のリリースからアップグレードする場合は、『IBM Rational Synergy アップグレードガイド Windows 版』を参照してください。

インストール

Rational Synergy を複数のマシンまたはプラットフォームにインストールする場合 (UNIX と Windows の両方にインストールする場合など)、Rational Synergy ルーターを実行するマシンに最初にインストールします。Rational Synergy を UNIX にインストールする場合は、『IBM Rational Synergy インストールガイド UNIX 版』を参照してください。

ライセンス

Rational Synergy をインストールする前に、Rational Synergy ライセンス ソフトウェアをインストールします。

ライセンス ソフトウェアのインストール方法については、『IBM Rational License Server TL Licensing Guide』を参照してください。このドキュメントは、[IBM Rational Software Information Center](#) からダウンロードできます。

ディレクトリサービス

Rational Synergy をインストールするには、Rational Directory Server をインストールする必要があります。Rational Directory Server をインストールするには、『Rational Directory Server Installation Guide』を参照してください。このドキュメントは、[IBM Rational Software Information Center](#) からダウンロードできます。

Rational Synergy

Rational Synergy ソフトウェアをインストールします。何をインストールすべきかが分からない場合は、17 ページの「インストール対象」を参照してください。

- メイン Windows サーバーをインストールする方法は、31 ページの「メイン Windows サーバーのインストール」を参照してください。
- 追加 Windows サーバーをインストールする方法は、51 ページの「追加 Windows サーバーのインストール」を参照してください。
- カスタム インストールを行う方法は、65 ページの「カスタム インストールの実行」を参照してください。
- コンパクト クライアントをインストールする方法は、72 ページの「コンパクト クライアントのインストール」を参照してください。

インストール後の作業

Rational Synergy ソフトウェアをインストールした後で、『IBM Rational Synergy 管理者ガイド Windows 版』を参照しながら、以下の作業を行ってください。このドキュメントは、[IBM Rational Software Information Center](#) および DVD のドキュメント セクションに用意されています。

- データベースをアンパックする。
この手順は Rational Synergy セッションを開始する前に行う必要があります。『IBM Rational Synergy 管理者ガイド Windows 版』の「アンパックによる作成」セクションを参照してください。
- データベースにユーザーを追加する。
この手順は『IBM Rational Synergy 管理者ガイド Windows 版』の「Rational Synergy データベースへのユーザー追加」セクションを参照してください。
- 必要に応じて、ビルドマシンを構成する。
これは、インストール エリアまたはデータベースに対して行うことができます。この手順は『IBM Rational Synergy 管理者ガイド Windows 版』の「ビルド マシンの設定」セクションを参照してください。
- 必要に応じて、Rational Change をインストールして構成する。
この作業は、Rational Change を使用する場合にのみ行う必要があります。このツールについては、『IBM Rational Change インストール ガイド Windows 版』、『IBM Rational Change インストール ガイド UNIX 版』および Rational Change オンライン ヘルプに説明されています。
- ローカルタイプのカスタマイズについてサイトのタイプデベロッパと調整を行う。タイプの作成と変更については、IBM Rational Synergy CLI ヘルプまたは IBM Rational Synergy Classic ヘルプで説明されています。
- データベース バックアップ計画を作成する。
データベースのバックアップ計画作成のガイドラインは、『IBM Rational Synergy 管理者ガイド Windows 版』の「Rational Synergy データベースのバックアップとリカバリ」セクションを参照してください。
- Windows クライアント インストールに URL を公開する。
Rational Synergy 7.1a クライアントのインストールが必要な Windows ユーザーにインストール用の URL を知らせてください。

トラブルシューティング

Rational Synergy の使用中に起こりうる問題、およびその解決方法については、**Rational Synergy Readme** を参照してください。Readme の場所については、1 ページの「Readme」を参照してください。

技術速報を読むには、**Rational Synergy サポート ウェブ サイト** (<http://www.ibm.com/software/awdtools/synergy>) のナレッジベースを参照してください。

4

インストール前の作業

この章では、Rational Synergy をインストールするために必要なシステム上の準備について説明します。この章の内容は、インストール中に指定する必要のある項目を事前に理解しておくための手助けとなります。注意深くお読みください。

インストール対象

Rational Synergy 製品には以下のインストールオプションがあります。

- **メイン Windows サーバー (Main Server)**
Windows サーバーのクライアント、エンジン、データベース サーバー、管理ツール、オブジェクト レジストラ、およびルーターが含まれます。
- **追加 Windows サーバー (Additional Server)**
Windows サーバーのクライアント、エンジン、データベース サーバー、管理ツールおよびオブジェクト レジストラが含まれます。
- **カスタム インストール**
インストールしたい Rational Synergy のコンポーネントを選択できます。
- **コンパクト クライアント (Compact Client)**
クライアントのみが含まれます。クライアントをインストールしたい場合には、この方法が最も一般的です。このインストールオプションにはすべてのグラフィカル ユーザー インターフェイス、つまり Rational Synergy と Synergy Classic が含まれます。

Rational Synergy のインストールに加えて、Rational License Server もインストールする必要があります。これは製品のインストールプロセスとは別の手順で行います。詳細については、14 ページの「ライセンス」を参照してください。

さらに、Rational Synergy のインストールに加えて、Rational Directory Server をインストールする必要があります。Rational Directory Server のインストールは Rational Synergy のインストールとは別の手順で行います。詳細は、28 ページの「Rational Directory Server のインストール」を参照してください。

カスタマーサイトごとにインストールするもの

Rational Synergy Windows サーバーを使用するすべてのカスタマー サイトは、ネットワークにメイン Windows サーバーをインストールする必要があります。一般的に、メイン サーバーは 1 台の Windows サーバー マシンにインストールされます。このインストール (31 ページの「メイン Windows サーバー

のインストール」を参照)を行うことで、Rational Synergy セッションを実行するために必要な以下の構成がすべて提供されます。

- Rational Synergy サービス
ルーター、ライセンス マネージャ、オブジェクト レジストラ、エンジン スタートアップ サービスが含まれます。
- データベース サーバー
- クライアント

チームが複数のデータベース サーバーを必要とする場合は、別の Windows サーバー マシンに追加のデータベースをインストールできます。

Rational Synergy Windows サーバーの代わりに Rational Synergy UNIX サーバーをインストールできます。Rational Synergy UNIX サーバーのインストールについては『IBM Rational Synergy インストールガイド UNIX 版』を参照してください。

Rational Synergy UNIX サーバーは、そのサーバーにアクセスするクライアントに先立ってインストールしてください。

注記 : Rational Synergy では、Rational Synergy Windows サーバーで Windows ブラウザ サービスを有効にする必要があります。そのように設定しないと、ユーザーが Informix-Admin グループのメンバーである必要がある ccmsrv オプションは動作しません。

ユーザーごとにインストールするもの

Rational Synergy セッションを開始するには、ユーザーのマシンにコンパクト クライアントをインストールするか、クライアント インストールが共有ネットワークドライブからアクセス可能である必要があります。ユーザーは、カスタム インストール オプションを使用してクライアントをインストールすることもできます。

以下のセクションでは、Windows 2003 または Windows XP Professional で実行するユーザーに対してインストールする必要があるものについて説明します。

Windows ユーザー

Windows を使用するユーザーには、以下の選択肢があります。

- コンパクト クライアントのインストール
ほとんどの Windows ユーザーは、ローカル マシンにコンパクト クライアントをインストールします。コンパクト クライアントをインストールすると、ユーザーのマシンではクライアント プロセスのみが実行され、

エンジン プロセスは **Rational Synergy** サーバーまたはエンジンを実行するよう設定された他のシステムで実行されます。

- 共有ネットワーク ドライブのクライアント インストールへのアクセス
各ユーザーのマシンのコンパクト クライアントをインストールする代わりに、ネットワーク ドライブ上の 1 つの共有インストールにアクセスさせる方法もあります。

メイン **Windows** サーバーをインストール後、ネットワーク ドライブ上にコンパクト クライアントをインストールしてネットワークで共有するコンパクト クライアントを作成できます。各 **Windows** ユーザーは、ネットワーク インストールがあるディレクトリから **Rational Synergy** プログラムを起動できます（ネットワーク インストールで使用したいプログラムのデスクトップ ショートカットを作成できます）。

- カスタム クライアント インストール
ユーザーのローカル マシンでエンジンを実行させたい場合があります。この場合は、カスタム インストール オプションを使用すると、ユーザーのマシンにクライアント、エンジン、およびエンジン スタート サービス (ESS) をインストールできます。

サーバー インストール計画

以下のセクションではメイン **Windows** サーバーと追加 **Windows** サーバーのインストールをどのように計画するかを説明します。カスタム インストール要件についても説明します。実行すべき適切なインストール タイプのセクションをお読みください。

メインと追加 **Windows** サーバー マシンの要件

下表に最小システム要件を示します。また、次ページの表には、インストールタイプごとに **IBM Rational Synergy** を実行するためのサーバーマシンに必要な最小構成を示します。インストールするクライアントによっては、下表に示された要件および推奨構成以上の性能や領域が必要になる場合があります。下表の情報は、22 ページの「メインおよび追加 **Windows** サーバー用の領域要件」のワークシートをレビューする際に使用します。

要件タイプ	インストールタイプ	要件
オペレーティングシステム	メイン / 追加サーバー	対応するオペレーティング システムのリストを、 Readme で確認してください。
ディスク領域	すべてのインストール — Rational Synergy ファイルシステム要件	<ol style="list-style-type: none"> Rational Synergy データベースファイルシステム要件： <ul style="list-style-type: none"> — Rational Synergy データベースに移行するデータのサイズに従ってディスク領域を割り当てます。また、データの増大を考慮して、余裕をもって領域を割り当てるように計画してください。データベースは、NTFS ファイルシステムパーティション上にある必要があります。 informix チャンク ファイル要件： <ul style="list-style-type: none"> — ユーザー数に従ってディスク領域を割り当てます。ファイルはローカル NTFS ファイルシステムパーティションにある必要があります。 ユーザー ワークエリアのディスク領域： <ul style="list-style-type: none"> — 各 Rational Synergy ユーザーには自分の作業用の全データを保存するための十分なディスク領域が必要です。

要件タイプ	インストールタイプ	要件
ディスク領域	メインサーバー 追加サーバー カスタム	<p>Rational Synergy メイン Windows サーバーをインストールするには：</p> <ul style="list-style-type: none"> — Windows マシンで 630 MB のディスク領域が必要です。 <p>Rational Synergy 追加 Windows サーバーをインストールするには：</p> <ul style="list-style-type: none"> — Windows マシンで 325 MB のディスク領域が必要です。 <p>カスタム インストールを実行するには (65 ページの「カスタム インストールの実行」参照)、インストールする構成にあわせてディスクおよびメモリ要件を追加します。</p>
ライセンス ファイル	メインサーバー/ カスタム	<p>有効な Rational Synergy ライセンス ファイルが必要です。</p> <p>Rational License Server TL のインストールの詳細については、14 ページの「ライセンス」を参照してください。</p>

以下に、最小マシン構成を示します。

要件タイプ	インストールタイプ	最小構成
CPU	メイン/追加サーバー	Xeon [®] 2 GHz デュアル プロセッサ以上
メモリ (マシン毎)	メイン/追加サーバー	3 GB
仮想メモリ	メイン/追加サーバー	物理 RAM の 3 倍
リポジトリ DB 領域	メイン/追加サーバー	2 GB パーティション

メインおよび追加 **Windows** サーバー用の領域要件

以下のワークシートは、インストールするメイン/追加 **Windows** サーバー用の領域割り当て方法を説明したものです。

インストールエリアの最小構成									
<p>インストール時にプログラムとデータを以下のように分離してください。</p> <p>1) Rational Synergy ソフトウェアを1つのディレクトリにインストール、2) データベースのアンパック時に別のディレクトリに Rational Synergy データベースをインストール、3) データベースサーバーのチャンク ファイルを別のディレクトリにインストールします。</p> <p>以下はインストール後の3つのドライブと3つのディレクトリを示した例です。</p> <p>1. C:¥Program Files¥IBM¥Rational¥Synergy¥7.1a (Rational Synergy /Informix 実行形式ファイルを含む)</p> <p>2. E:¥ccmdb (NTFS ファイル システム パーティション上の Rational Synergy データベース ディレクトリ)</p> <p>3. F:¥ifmxdata (ローカル NTFS ファイル システム パーティション上のデータベースサーバー チャンク ファイル (rootdbs、tempdbs、log、および ccm) を含む。詳細については 26 ページの「ディスク領域注意事項」を参照)</p> <p style="text-align: center;">注記：ディレクトリ 2 と 3 は、使用量が増加する可能性があります。メイン/追加サーバーをインストールする前にその増加分を考慮に入れて、このワークシートを完成してください。</p>									
領域要件例									
<p>Rational Synergy がインストールされたシステム：</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">Rational Synergy メイン サーバー インストール エリア：</td> <td style="text-align: right;">630 MB (実行形式ファイル)</td> </tr> <tr> <td>ifmxdata：</td> <td style="text-align: right;">220 MB (40ユーザー)</td> </tr> <tr> <td>ccmdb 領域：</td> <td style="text-align: right;">100 MB (データベース内のプロジェクトのサイズによってさらに大きい値)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: right;">計：950 MB 最小値</td> </tr> </table>		Rational Synergy メイン サーバー インストール エリア：	630 MB (実行形式ファイル)	ifmxdata：	220 MB (40ユーザー)	ccmdb 領域：	100 MB (データベース内のプロジェクトのサイズによってさらに大きい値)	計：950 MB 最小値	
Rational Synergy メイン サーバー インストール エリア：	630 MB (実行形式ファイル)								
ifmxdata：	220 MB (40ユーザー)								
ccmdb 領域：	100 MB (データベース内のプロジェクトのサイズによってさらに大きい値)								
計：950 MB 最小値									

最小領域構成	
1. Rational Synergy インストール (実行形式ファイル) :	630 MB
2. ifmxdata (データファイル) :	
インストール デフォルト (平均 5 MB / ユーザー)	
40 ユーザー (デフォルト) :	220 MB _____ MB
3. ccldb :	
Rational Synergy データベースは、ユーザーが新しいデータを以降または作成すると拡張されます。	
そのため、ccldb ファイル システムのディスク領域の増分を計画してください。	
ccldb ファイル システムは共有 NTFS ファイル システムにある必要があります。	
データベースあたりの領域 :	220 MB 最小値
	計: _____ MB

クライアント インストール計画

以下のセクションでは、コンパクト クライアントのインストールをどのように計画するかについて説明します。

クライアント マシンの要件

下表に、クライアント マシンの最小要件を、その次の表に最小構成を示します。インストールするクライアントによっては、下表に示された要件および構成以上の性能や領域が必要になる場合があります。

要件タイプ	インストールタイプ	要件
オペレーティングシステム	コンパクト クライアント	対応するオペレーティング システムのリストを、 <i>Readme</i> で確認してください。
ディスク領域 (Windows マシン 毎)	コンパクト クライアント	153 MB

以下に、最小構成を示します。

要件タイプ	インストールタイプ	最小構成
CPU	コンパクト クライアント	Core 2 Duo
メモリ	コンパクト クライアント	2 GB
仮想メモリ	コンパクト クライアント	物理メモリの 3 倍

クライアント領域構成

以下のワークシートは、Rational Synergy Windows クライアントソフトウェア用の領域割り当て方法を説明したものです。

インストールエリアの構成											
<p>以下は Rational Synergy Windows クライアントのデフォルト インストール エリアです。この領域は、インストール時にデフォルトのままにするか、変更できます。 C:\Program Files\IBM\Rational\Synergy\7.1a (Windows クライアント用の Rational Synergy 実行形式ファイルを含みます。)</p>											
領域要件例											
<p>Rational Synergy クライアントをインストールしたシステム</p> <table> <tr> <td>Rational Synergy インストール エリア :</td> <td>153 MB</td> </tr> <tr> <td>ユーザー ワークエリア (ユーザー マシンのユーザー毎)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>この合計はデータサイズによって異なります。</td> <td>100 MB</td> </tr> <tr> <td>ワークエリアは共有ネットワーク ドライブに取ることもできます。</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>計 : 253 MB</td> </tr> </table>		Rational Synergy インストール エリア :	153 MB	ユーザー ワークエリア (ユーザー マシンのユーザー毎)		この合計はデータサイズによって異なります。	100 MB	ワークエリアは共有ネットワーク ドライブに取ることもできます。			計 : 253 MB
Rational Synergy インストール エリア :	153 MB										
ユーザー ワークエリア (ユーザー マシンのユーザー毎)											
この合計はデータサイズによって異なります。	100 MB										
ワークエリアは共有ネットワーク ドライブに取ることもできます。											
	計 : 253 MB										
最小領域要件											
<p>1. Rational Synergy 7.1a インストールエリア (コンパクトクライアント) : 153 MB</p> <p>2. ユーザー ワークエリア領域要件 :</p> <ul style="list-style-type: none"> — 各ユーザーのワークエリアはユーザーが書き込めるディレクトリである必要があります。ユーザーは、Rational Synergy Startup Info ダイアログボックスの Home Directory フィールドでワークエリアをどこにとるかを定義できます。このダイアログボックスは Rational Synergy セッションを開始したときに表示されます。 — 領域は全てのビルド/コンパイルサーバーから見える必要があります。各ワークエリアあたりの領域、ユーザー毎 : _____ X 200 MB <p style="text-align: right;">計: _____ MB</p>											

システムの準備

データベース サーバーを作成し、データベース サーバー プロセスを開始する前に、以下のセクションを読んで、システムがデータベース サーバーとして適切に設定されていることを確認してください。

ディスク領域注意事項

データベース サーバーをインストールするとき、`setup` プログラムは **Informix[®]** チャンクファイルのある場所を尋ねてきます (42 ページのステップ 20 参照)。チャンク ファイルを配置する場所を選択するときは、以下の項目に注意してください。

- チャンクファイルは、誤って削除されない場所に配置してください。チャンク ファイルは、データベース サーバー マシンのローカル ディスク上に配置してください。

注意！データベース サーバーにチャンク ファイルを作成した後でファイルを移動しないでください。もし移動すると、データベース サーバーは動作できなくなり、その結果データを失う可能性があります。

- ローカル NTFS ファイル システムを使用する必要があります。
- 将来、データベース サーバーの領域を拡張する必要に迫られる場合があります。その場合は、追加のチャンク ファイルを作成する必要があります。手順については、『**IBM Rational Synergy 管理者ガイド Windows 版**』の「`ccmsrv expand`」を参照してください。

デフォルトで、**IBM Rational Synergy** は以下の基準に従ってデータベース用の初期チャンク領域 (`dbspace`) を作成します。

- `root`、`log`、および `temp dbspace` へは、ユーザー数 × 1MB を使用 (`root` は最小でも 60MB 必要です)。
- 初期 `ccm dbspace` へはユーザー数 × 2MB を使用。

注記：上記基準は、データベース用の初期チャンク領域の大まかな見積りです。すべてのユーザーのメタデータが格納される場所であること、およびデータベース容量が通常は増大してゆくことを考慮して、余裕をもった領域割り当てを行ってください。

Services ファイルの確認

データベース サーバーには **Services** ファイルが必要です。このファイルは、通常は `%windir%\System32\drivers\etc\services` にあります。見つけられない場合は、データベース サーバーのインストール プロセスを開始する前にシステム管理者に問い合わせてください。

Services ファイルには、ネットワーク上の既知のサービスごとに1つのエントリ（行）が含まれています。各行にはサービス名、ポート番号、プロトコルが記載されています。名前のエイリアス（別名）はオプションです。ファイルの構文は、`サービス名 ポート番号/プロトコル [エイリアス] [# コメント]` です。

Rational Synergy インストール プログラムは、メイン **Windows** サーバー、追加 **Windows** サーバー、エンジンをインストールするときに **Services** ファイルを自動的に更新します。この際、ユーザーはポート番号を入力する必要があります。ほとんどの場合、あらかじめ表示されているデフォルトの値を変更する必要はありません。

以下は **Services** ファイルのエントリの例です。

```
turbo 1526/tcp #Informix-OnLine Dynamic Server
```

各項の内容は以下のとおりです。

`turbo` は、**Informix** ネットワーク サービスの名前です。

`1526` は、ポート番号、`tcp` はプロトコル名です。**TCP/IP** ポート番号は、**Rational Synergy** 製品を実行する全てのホストで同じである必要があります。

`#` コメントは、追加する任意の情報です。

Services ファイルが存在し、正しい内容になっていれば、**Rational Synergy** を実行するためにユーザーがファイルを修正する必要ありません。疑問がある場合はシステム管理者に質問してください。

注記：このファイルに記述されるサービスは、**TCP** または **UDP** ポート サービスを参照します。これらのサービスは、『**IBM Rational Synergy 管理者ガイド Windows 版**』の「サービスの監視」セクションで説明されている **Windows** サービスや **Windows** サービス マネージャが管理するサービスとは異なります。

Rational Synergy アドミニストレータの作成

Rational Synergy 製品のインストールを開始する前に、`ccm_root` などの、**CM** アドミニストレータになるユーザーを作成する必要があります。このユーザーは **CM** 管理専用で使用してください。このユーザーには特別の権限が与

えられており、開発者またはビルド マネージャ ロールのユーザー用ではありません。

Rational License Server TL のインストール

Rational Synergy では、Rational License Server TL を使用します。Rational License Server TL は、FLEXnet ベースのライセンス サーバーで、Rational Synergy、IBM® Rational® DOORS、および IBM® Rational® Tau 製品のライセンス管理に使用されます。Rational Synergy を実行するためには、ここで説明しているインストール プロセスとは別に Rational License Server TL をインストールする必要があります。Rational Synergy 製品をインストールする前に Rational License Server TL をインストールしてください。

ライセンスのインストールの詳細については、14 ページの「ライセンス」を参照してください。

Rational Directory Server のインストール

Rational Synergy をインストールするには、Rational Directory Server (RDS) をインストールする必要があります。RDS は、企業が大量データの格納、取得のために利用できるデータベースを集中管理する強力なソリューションです。RDS のインストールは別に行います。RDS のインストールの詳細については、[IBM Rational Software Information Center](#) を参照してください。

5

サーバーのインストール

この章では Rational Synergy メイン サーバー ソフトウェアのインストール方法について説明します。各サイトでは、データベースのアンパックを行う前にこのインストールを完了する必要があります。追加サーバーのインストール方法やカスタム インストールについてもこの章で説明します。

注記：Rational Synergy ソフトウェアは、サポートされる任意の Windows サーバーにインストールできます。Readme ファイルを読むか、Rational Synergy サポート ウェブ サイトでサポートされるハードウェアとオペレーティング システムのリストを確認してください。このドキュメントでは、サーバーについて述べるときに、一般的な表現である「Windows サーバー」を使用します。

サーバー ソフトウェアをインストールする前に

メイン Windows サーバーと追加サーバーは、CM アドミニストレータまたはシステム管理者がインストールする必要があります。

Rational Synergy ソフトウェアを最初にインストールする場合は、以下の作業を行ってください。

- 17 ページの「インストール前の作業」を読みます。
- ライセンス情報を準備します。『IBM Rational License Server TL Licensing Guide』の「Locating your server license file」を参照してください。
- Rational Directory Server が使用するポートを用意します。28 ページの「Rational Directory Server のインストール」を参照してください。
- Windows サーバー マシンが 20 ページの「メインと追加 Windows サーバー マシンの要件」にリストアップされたシステム要件を満たしていることを確認します。
- 22 ページの「メインおよび追加 Windows サーバー用の領域要件」を読みます。

追加サーバーをインストールする場合は、以下の作業を行います。

- 51 ページの「追加 Windows サーバーのインストール」を読みます。

Rational Synergy Windows サーバーのインストール

メイン Windows サーバー、追加サーバー、またはカスタム インストールを行うことができます。それぞれのインストールは固有なものです。各手順は以下のページにあります。

- 31 ページの「メイン Windows サーバーのインストール」
- 51 ページの「追加 Windows サーバーのインストール」
- 65 ページの「カスタム インストールの実行」

インストールを行う前に以下の事項に注意してください。

- **Rational Synergy** ソフトウェアをインストールしたことがなく、どのタイプのインストールを行えばよいか分からない場合は、17 ページの「インストール前の作業」をお読みください。
- メイン サーバーをインストールした後、次に何を行うかが分からない場合は、13 ページの「Rational Synergy インストール チェックリスト」を参照してください。
- メイン Windows サーバーまたは追加サーバーをインストールした後、クライアントをインストールするには、72 ページの「コンパクト クライアントのインストール」を参照してください。

メイン Windows サーバーのインストール

以下のインストール手順は、コンパクト クライアント、エンジン、データベース サーバー、管理ツール、オブジェクト レジストラ、ライセンス マネージャ、およびルーターを含むメイン Windows サーバーのインストールについて説明しています。

注記：Windows サーバーをインストールするには Informix の Rational Synergy を使用するライセンスが必要です。

メイン Windows サーバーのインストールは、追加サーバーやクライアントのインストールより前に行う必要があります。すでにメインサーバーをインストールして、さらにサーバーをインストールする必要がある場合は、51 ページの「追加 Windows サーバーのインストール」を参照してください。

1 つの Rational Synergy ライセンスファイルについて、1 つのメイン Windows サーバーのみインストールできます。詳細については、28 ページの「サーバー ライセンスの設定」を参照してください。

メイン Windows サーバーをインストールするには、以下の要件を満たす必要があります。

ユーザー要件： ローカル アドミニストレータ グループのメンバーであること。

ローカル NTFS ファイル システム パーティションへの書き込み権限を持っていること。

Active Directory ユーザーであること。

OS 要件： Readme ファイルまたは Rational Synergy サポート ウェブ サイトで確認してください。

前提条件： `%windir%\System32\drivers\etc\services` ファイルが書き込み可能であること（`%windir%` は Windows のインストールディレクトリ）。
ドメインにログオン可能であること。

注記：メインサーバーと追加サーバーは 1 つのドメイン環境にインストールする必要があります。追加サーバーのインストールについては、51 ページの「追加 Windows サーバーのインストール」を参照してください。

メイン Windows サーバーをインストールするには、以下の手順を行います。

1. Windows ドメインにログオンします。
2. Rational Synergy インストーラを開始します。
 - DVD からインストールする場合は、Rational Synergy Windows サーバーが含まれている DVD を DVD ドライブに挿入します。Windows

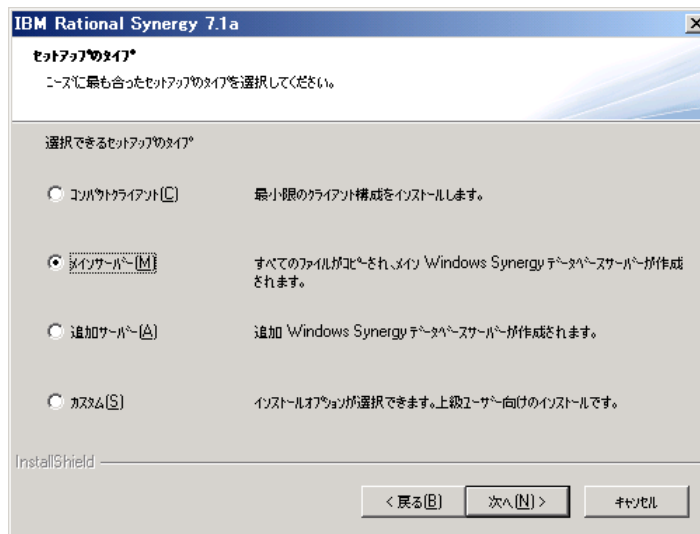
タスクバーで**スタート**ボタンを右クリックし、ショートカットメニューを表示します。**エクスプローラ**をクリックし、**Windows** エクスプローラを開きます。

DVD_drive:¥win_servers¥synergy_server に移動し、**setup.exe** をダブルクリックして、**ウェルカム** ダイアログボックスを表示します。

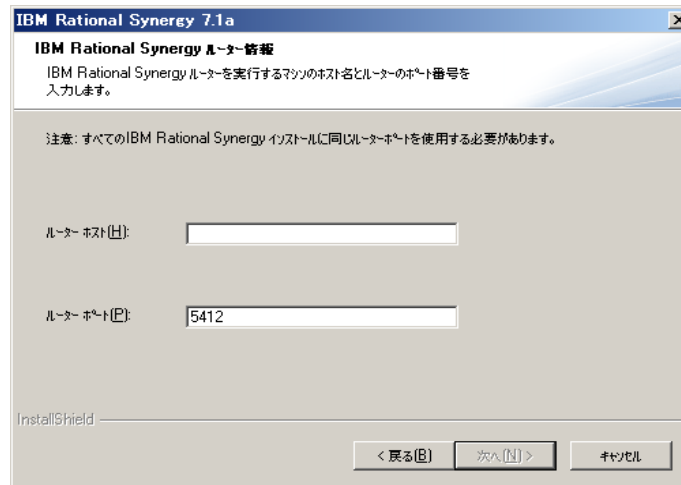
- ダウンロードからインストールする場合は、インストーラの .exe ファイルをダブルクリックします。**ウェルカム** ダイアログボックスが表示されます。
3. **次へ**をクリックして、**ソフトウェアライセンス情報** (使用許諾契約) ダイアログボックスを表示します。ライセンス条項を確認して同意します。
 4. **次へ**をクリックして、インストール先の選択ダイアログボックスを表示します。デフォルトのインストール場所を受け入れるか、**参照** ボタンをクリックして、別の場所を指定できます。
 5. **次へ**をクリックして、**セットアップのタイプ**ダイアログボックスを表示します。

ドメインユーザーであり、ローカルアドミニストレータグループのメンバーである場合、**セットアップのタイプ**ダイアログボックスが表示されます。**メイン** サーバーを選択して**次へ**をクリックし、ステップ 6 に進みます。

メインサーバーは、ネットワーク上に1つのみ存在できます。



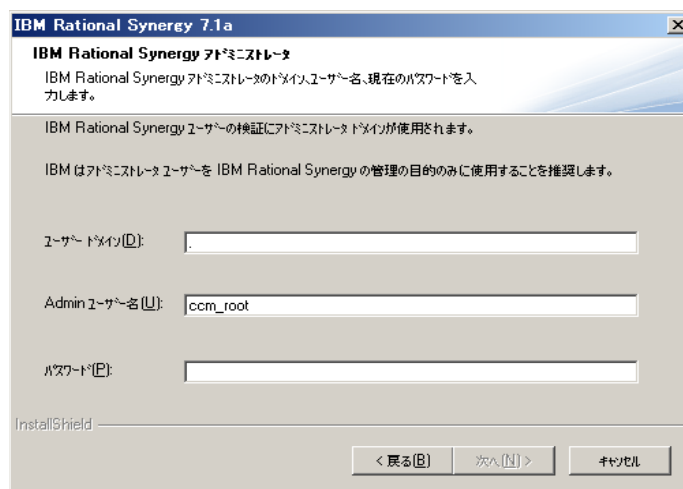
ドメイン ユーザーではなく、ローカルアドミニストレータ グループのメンバーでもない場合は、コンパクト クライアントのインストール用の **IBM Rational Synergy ルーター情報** ダイアログボックスが表示されます。



この状況を解決するには以下を行ってください。

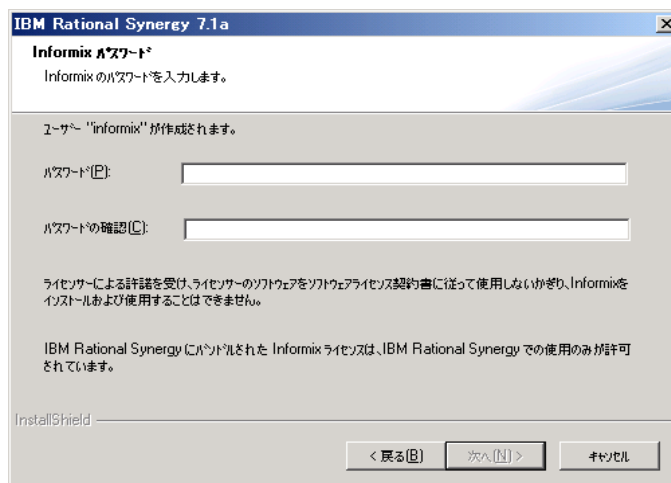
- a. **キャンセル**をクリックし、**setup** プログラムを終了します。
 - b. ローカル アドミニストレータ グループのメンバーであるドメイン ユーザーとしてログオンします。
 - c. メイン Windows サーバーのインストールを開始します (31 ページの「メイン Windows サーバーのインストール」を参照)。
6. 必要に応じて、**IBM Rational Synergy** アドミニストレータダイアログボックスで、ドメイン名を**ユーザー ドメイン**フィールドに入力します。
Admin ユーザー名とパスワードを、該当するフィールドに入力します。

インストールを実行する前に、ドメインおよび Admin ユーザーがすでに存在している必要があります。

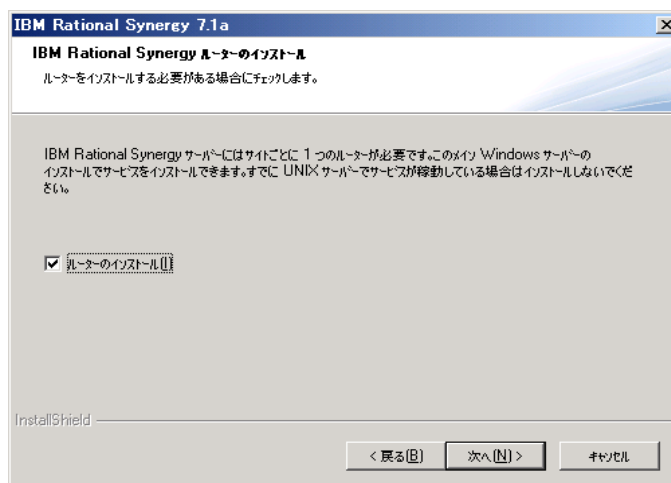


7. **次へ**をクリックして、**Informix** パスワードダイアログボックスを表示します。
 - すでにユーザー *informix* を取得している場合：
informix ユーザーのパスワードを入力するように指示されます。入力したパスワードがインストールプログラムによって確認されます。
ステップ 8 に進みます。
 - ユーザー *informix* をまだ取得していない場合：
インストールプログラムが *informix* ユーザーを作成します。ユーザー *informix* は **Informix-Admin** グループのメンバーでデータベース サーバー コマンドを実行する権限を持ちます。この場合、以下のダイアログボックスのように、パスワードの入力と、確認のためパスワードの再入力を指示されます。

informix ユーザーのパスワードをパスワードフィールドとパスワードの
確認フィールドに入力します。



8. **次へ**をクリックして、**IBM Rational Synergy ルーター**のインストールダイアログボックスを表示します。



9. ルーターをインストールしていない場合は、**ルーターのインストール**を選択します。**Rational Synergy** サーバーは、サイトごとに 1 つのルーターを必要とします。

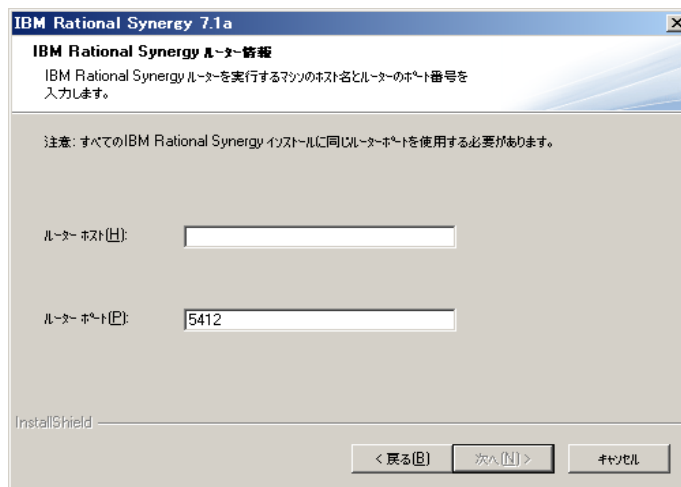
ルーターがすでに UNIX で実行されている場合は、新しいルータを **Rational Synergy Windows** サーバーにインストールしないでください。UNIX で実行されている機能でサービスを共用できます。
10. **次へ** をクリックして、**IBM Rational Synergy ルーター情報** ダイアログボックスを表示します。ステップ 9 で **ルーターのインストール** を選択していた場合は、ステップ a を実行します。選択していない場合は、ステップ b を行ってください。
 - a. ルーターとライセンスマネージャをインストールする場合は、**IBM Rational Synergy ルーター情報** ダイアログボックスでルーターのポート番号のみを入力するよう要求されます。



デフォルトでは、**Rational Synergy** ルーターが使用するポート番号は 5412 です。このポート番号がすでに使用されている場合は、**ルーターポート** フィールドのポート番号を変更してください。ポート番号 5412 が使用可能かどうか不確かな場合は、ディレクトリ `%windir%\System32\drivers\etc\services` の **Services** ファイルを参照してください。詳細については、27 ページの「**Services** ファイルの確認」を参照してください。

- b. ルーターとライセンスマネージャをインストールしない場合は、**IBM Rational Synergy ルーター情報** ダイアログボックスでルーターのホスト名およびポート番号を入力するよう要求されます。デフォルトで

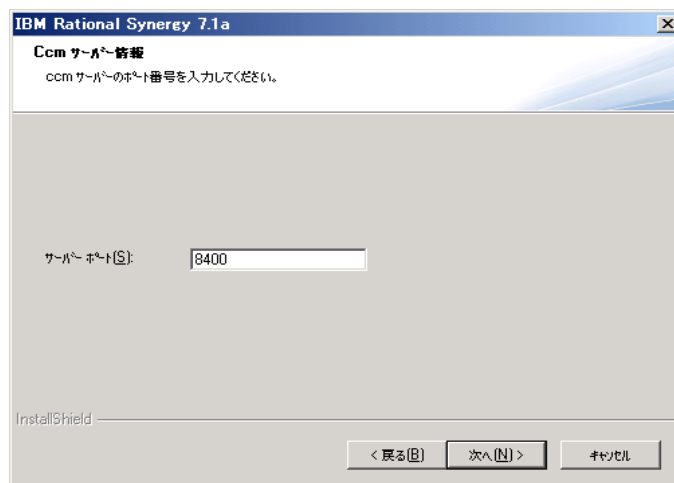
は、Rational Synergy ルーターは 5412 を使用します。ポート番号はルーター マシンで指定したものと同一である必要があります。



デフォルトを変更する必要がある場合は、ルーターのホスト名とポート番号を適切なフィールドに入力してください。

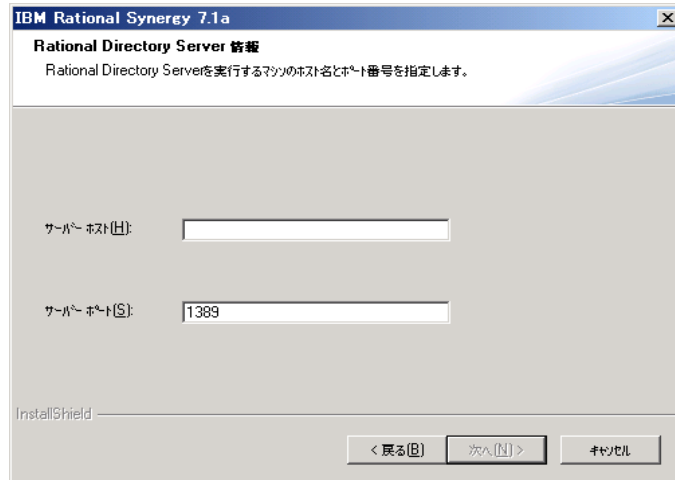
11. **次**へクリックして、**IBM Rational Synergy CCM サーバー情報**ダイアログボックスを表示します。CCM サーバーは、すべてのウェブモードとトランザクショナルモードの Rational Synergy GUI セッションに対してオンラインヘルプ ページを提供するウェブ サーバーです。Rational Synergy には

ルーター ホスト システムで稼働する 1 つのプライマリサーバーが必要です。



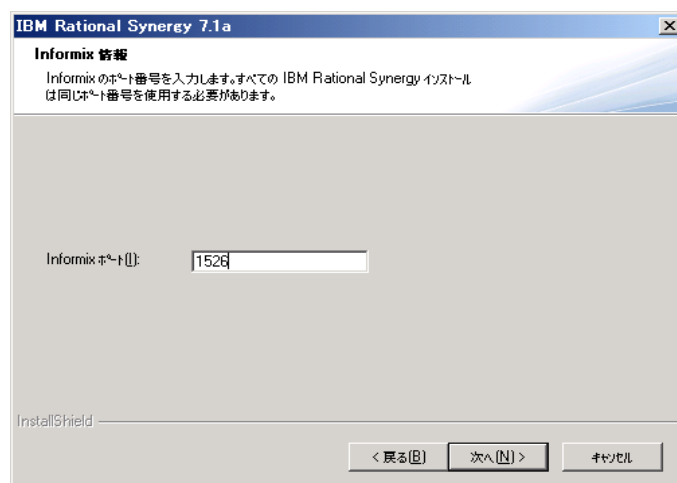
12. デフォルトのプライマリ サーバー ポート番号 (8400) がすでに使用されている場合は、**ポート番号**フィールドでポート番号を変更します。ポート番号 8400 が使用可能かどうか不確かな場合は、ディレクトリ `%windir%\System32\drivers\etc\services` の `Services` ファイルを参照してください。詳細については、27 ページの「Services ファイルの確認」を参照してください。

13. **次へ**をクリックして、**Rational Directory Server 情報**ダイアログボックスを表示します。



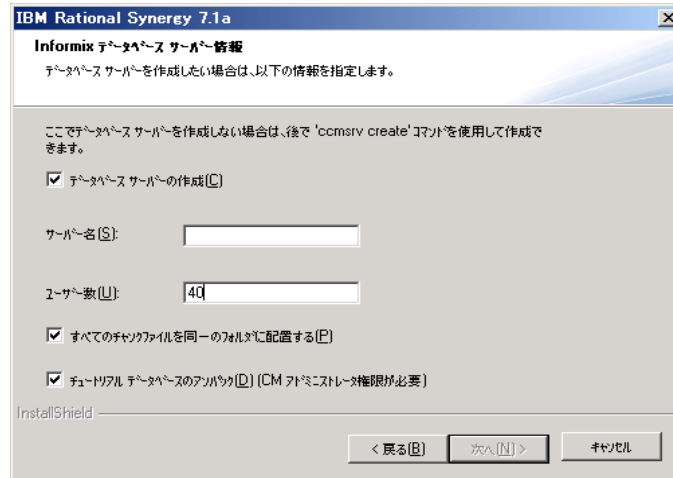
14. サーバーホストとサーバーポートフィールドに、Rational Directory server用のホスト名とポート番号を入力します。デフォルトのプライマリサーバー用ポート番号は、1389です。RDSが使用するポート番号を確認するには、ディレクトリ `%windir%\System32\drivers\etc\services` の Services ファイルを参照してください。詳細については、27 ページの「Services ファイルの確認」を参照してください。

15. **次へ**をクリックして、**Informix 情報**ダイアログボックスを表示します。



16. デフォルトの Informix ポート番号 (1526) がすでに使用されている場合は、**Informix ポート**フィールドでポート番号を変更してください。ポート番号 1526 が使用可能かどうか不確かな場合は、ディレクトリ `%windir%\System32\drivers\etc\services` の **Services** ファイルを参照してください。詳細については、27 ページの「**Services** ファイルの確認」を参照してください。
17. **次へ**をクリックして、**Informix データベースサーバー情報**ダイアログボックスを表示します。

18. Informix データベース サーバーを作成します。



すべての Informix データベース サーバー ダイアログのデフォルト設定は、あくまで例として提示しています。ダイアログのデフォルト設定をベースに 22 ページの「メインおよび追加 Windows サーバー用の領域要件」で計画した設定を行ってください。このセクションを完了していない場合は、これらのダイアログでの設定を行う前に、このセクションでの計画を完了してください。

- 旧リリースからのアップグレードの場合は、**データベース サーバーの作成**を選択しないでください。その他の場合はすべて、このチェックボックスを選択します。

データベース サーバーの作成を選択しないと、新しく Informix ソフトウェアをインストールしますが新しいデータベース サーバーは作成されません。

注意！ 同じマシンで旧リリースからアップグレードする場合、**データベース サーバーの作成**を選択すると、古いチャンクファイルが上書きされる場合があります。これはデータ損失になる可能性があります。詳細については、現在のインストールに関連するアップグレード手順を参照してください。

- データベース サーバーを作成する場合、**サーバー名**フィールドにサーバー名を入力します。あるいは、デフォルトのコンピュータ名を使用できます。
- Windows サーバー領域計画をベースにユーザー数フィールドに適切な**ユーザー数**を入力します。

- デフォルトでは、すべてのチャンク ファイルを同一のフォルダに配置する、が選択されます。同じディレクトリにチャンク ファイルを格納したい場合はこの設定のままにします。そうでない場合は、このチェックボックスの選択を解除します。詳細については 22 ページの「メインおよび追加 Windows サーバー用の領域要件」のワークシートの「インストールエリアの最小構成」を参照してください。

チャンク ファイルについて学習するには『IBM Rational Synergy 管理者ガイド Windows 版』の「データベース サーバーの作成」を参照してください。

- CM アドミニストレータとしてインストールプログラムを実行しており、データベース サーバーの作成を選択した場合は、チュートリアル用データベース (Training) を自動作成するように設定できます。チュートリアル用 データベースが必要な場合は、チュートリアルデータベースのアンパックを選択します。

チュートリアル データベースは、以下のパスに作成されます。

¥¥computername¥ccmdb¥training

computername は、インストールを実行しているマシンの名前です。ccmdb ディレクトリがない場合は、インストール プログラムが作成して共有に設定します。

19. 次へ をクリックして、データベース サーバー情報の作成ダイアログボックスを表示します。

データベース サーバーを作成する場合 (ステップ 18 で指定)、サーバーの作成によって既存の onconfig ファイル、SQLHOSTS レジストリ エントリ、または Informix データベースのチャンク ファイルが上書きされることを警告するメッセージが表示されます。OK をクリックして、データベース サーバー情報の作成ダイアログボックスを表示します。

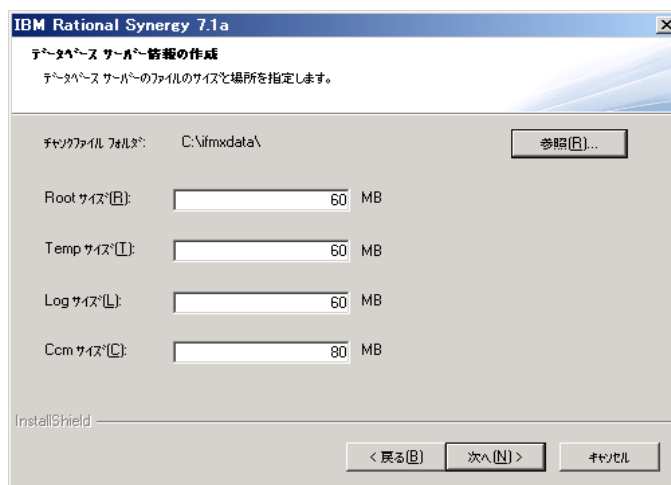
20. ステップ 18 ですべてのチャンク ファイルを同一のフォルダに配置するを選択した場合は、43 ページの「チャンク ファイルを同じフォルダに保存するには、以下の手順を行います。」の手順に従ってください。選択しなかった場合は、44 ページの「チャンク ファイルを別フォルダに保存するには、以下の手順を行います。」の手順に従ってください。

チャンクファイルの割り当てが不確かな場合は、26 ページの「ディスク領域注意事項」を参照してください。

注意！ チャンク ファイルをデータベースサーバーに作成した後は移動しないでください。移動すると、データベース サーバーは動作しなくなり、データを失う可能性があります。

チャンク ファイルを同じフォルダに保存するには、以下の手順を行います。

- a. **データベースサーバー情報の作成**ダイアログボックスで、デフォルトの場所として `drive:\ifmxdata` を受け入れるか、**参照** ボタンをクリックして別の場所を指定します。



- b. **Root サイズ**、**Temp サイズ**、**Log サイズ**、**Ccm サイズ**のフィールドに、`dbspace` のサイズを入力します。
各 `dbspace` のサイズを計算する方法については、『IBM Rational Synergy 管理者ガイド Windows 版』の「データベースサーバーの作成」を参照してください。
- c. **次へ** をクリックして、**IBM Rational Synergy UNIX** サーバーへの**接続**ダイアログボックスを表示します。48 ページのステップ 21 に進んでください。

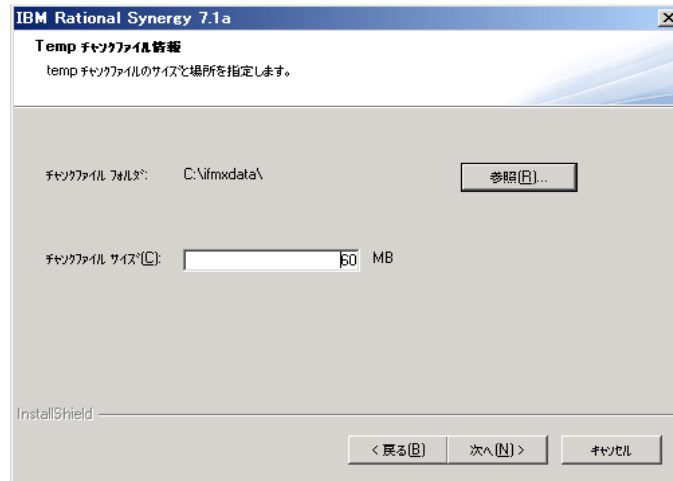
チャンク ファイルを別フォルダに保存するには、以下の手順を行います。

- a. **Root チャンク ファイル情報**ダイアログボックスで、デフォルトの場所として `drive:¥ifmxdata¥` を受け入れるか、**参照** ボタンをクリックして別の場所を指定します。



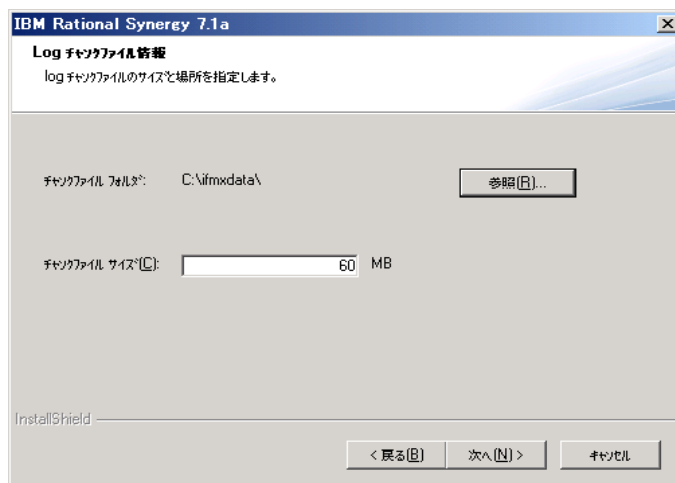
- b. デフォルトを変更する必要がある場合は、チャンク ファイルのサイズを **チャンク ファイル サイズ** フィールドに入力します。
以下のダイアログで要求される 4 つの `dbspace` サイズ (`rootdbs`、`tempdbs`、`log`、`ccm`) の計算方法については、『IBM Rational Synergy 管理者ガイド Windows 版』の「データベース サーバーの作成」を参照してください。
- c. **次へ** をクリックして、**Temp チャンク ファイル情報** ダイアログボックスを表示します。

注記：チャンク ファイルがすでに指定ディレクトリに存在する場合、これらのファイルが上書きされることを警告するダイアログボックスが表示されます。



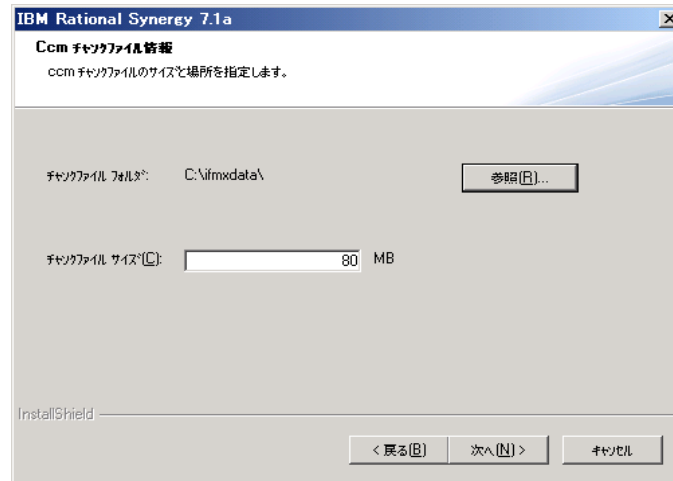
- d. **Temp チャンク ファイル情報**ダイアログボックスで、デフォルトの場所として `drive:¥ifmxdata¥` を受け入れるか、**参照**ボタンをクリックして別の場所を指定します。
- e. デフォルトを変更する必要がある場合は、チャンク ファイルのサイズを**チャンク ファイル サイズ**フィールドに入力します。

- f. **次へ**をクリックして、**Log チャンク ファイル情報**ダイアログボックスを表示します。



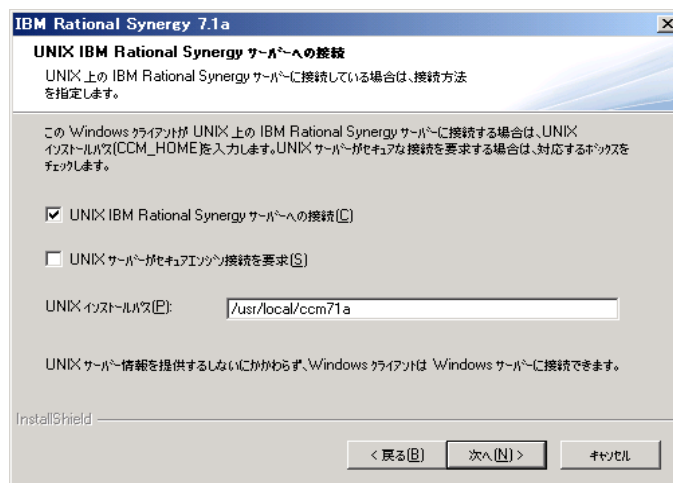
- g. **Log チャンク ファイル情報**ダイアログボックスで、デフォルトの場所として `drive:\ifmxdata\` を受け入れるか、**参照**ボタンをクリックして別の場所を指定します。
- h. デフォルトを変更する必要がある場合は、チャンク ファイルのサイズを **チャンク ファイル サイズ**フィールドに入力します。

- i. **次へ**をクリックして、**Ccm チャンク ファイル情報**ダイアログボックスを表示します。



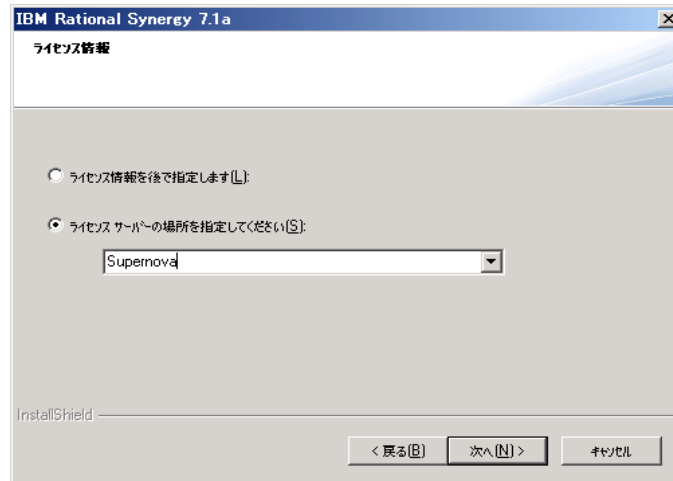
- j. **Ccm チャンク ファイル情報**ボックスで、デフォルトの場所として `drive:\ifmxdata` を受け入れるか、**参照**ボタンをクリックして別の場所を指定します。
- k. デフォルトを変更する必要がある場合は、チャンク ファイルのサイズを**チャンク ファイル サイズ**フィールドに入力します。
- l. これでチャンク ファイルを別のディレクトリに保存する設定が完了しました。

21. **次へ**をクリックして、**UNIX IBM Rational Synergy** サーバーへの**接続**ダイアログボックスを表示します。



- a. クライアントを UNIX サーバーに接続したい場合は、**UNIX IBM Rational Synergy** サーバーへの**接続**を選択します。そうでない場合は、このチェックボックスの選択を解除してください。
- b. **UNIX IBM Rational Synergy** サーバーへの**接続**を選択した場合は、セキュア接続を行うかどうかを指定します。
- c. **UNIX IBM Rational Synergy** サーバーへの**接続**を選択した場合は、UNIX インストールパスを **CCM_HOME** フィールドに入力します。

- **ライセンス情報**ダイアログボックスが表示されたら、適切なライセンスオプションを選択します。



ライセンス情報の取得の詳細については、21 ページの「ライセンスの取得」を参照してください。

22. **次へ**をクリックして、**ファイル コピーの開始**ダイアログボックスを表示します。
 - a. **現在の設定**リストをスクロールして設定を確認します。設定の変更が必要な場合は、変更したいダイアログボックスが表示されるまで**戻る**をクリックします。設定を変更した後、**ファイル コピーの開始**ダイアログボックスに戻るまで**次へ**をクリックします。
 - b. すべての設定が正しければ**次へ**をクリックします。
 ファイルがシステムにロードされている間、ロードの進捗状況を示すウィンドウがスクリーン中央に表示されます。
 インストールプログラムの終了後に再起動するように尋ねるダイアログボックスが表示された場合は、ダイアログボックスに表示される手順に従ってインストールを完了してください。再起動が必要かどうかはインストールプログラムが判断します。
23. **完了**をクリックします。これで、IBM Rational Synergy メイン Windows サーバーのインストールは完了です。

すべての設定情報が、以下のログファイルに記録されます。
 C:\¥Documents and Settings¥user¥Application Data¥IBM Rational¥Synergy 7.1a¥install.log

データベースをアンパックして、CM アドミニストレータとして **IBM Rational Synergy** セッションを開始できます。しかし、**IBM Rational Synergy** データベースにユーザーを追加するまで、データベースは使用できません。

チュートリアル データベースを作成するオプションを選択した場合は、デスクトップ ショートカット **Training for IBM Rational Synergy 7.1a** を使用してそのデータベースでセッションを開始できます。CM アドミニストレータはチュートリアル データベースのユーザーですが、他のユーザーにも使用させる場合は、そのユーザーをこのデータベースに追加する必要があります。

データベースのアンパック、データベースへのユーザーの追加、**IBM Rational Synergy** セッションの開始については、『**IBM Rational Synergy 管理者ガイド Windows 版**』を参照してください。

次に行うインストール

追加サーバーをインストールするには、51 ページの「追加 **Windows** サーバーのインストール」を参照してください。

カスタム インストールを行うには、65 ページの「カスタム インストールの実行」を参照してください。

コンパクト クライアントをインストールするには、72 ページの「コンパクト クライアントのインストール」を参照してください。

自動更新プロセスのガイドライン

メイン **Windows** サーバーのインストールが完了したら、ユーザーは **Rational Synergy** クライアントをインストールできます。CM アドミニストレータは、すべてのユーザーに対してメールを送信して、クライアントがインストールできること、および **Windows** クライアントインストールイメージの URL を連絡します。

追加 Windows サーバーのインストール

以下の手順は、コンパクト クライアント、エンジン、データベース サーバー、管理ツール、オブジェクト レジストラなど、追加 Windows サーバーをインストールする方法について説明しています。

注記：Windows サーバーをインストールするには、Informix の Rational Synergy を使用するライセンスが必要です。

追加サーバーをインストールする主な理由は、資源の有効な割り当てです。データベース サーバーを追加することでデータベースを分割して容量の増加を個別に制御できます。たとえば、会社の規模は大きい但现在は社内の 1 グループだけが Rational Synergy を使用している場合は、1 つのデータベースを作成して、そこにすべてのソース コード、ドキュメント、テスト オブジェクトを格納するという方法を取ることができます。その後、Rational Synergy 社内のすべてのプロジェクトにとって最適なツールであると会社レベルの判断がなされた場合には、ソースコード用、ドキュメント用、テスト用などそれぞれの目的でデータベースを分けて作成できます。また、データベースごとに別のサーバーを使用することもできます。

追加 Windows サーバーをインストールするには、以下の要件を満たす必要があります。

ユーザー要件： ローカル アドミニストレータ グループのメンバーであること。

ローカル NTFS ファイル システム パーティションへの書き込み権限を持っていること。

Active Directory ユーザーであること。

OS 要件： Readme ファイルまたは Rational Synergy サポート ウェブ サイトで確認してください。

前提条件： メイン Windows サーバーがインストール済みであること
%windir%\System32\drivers\etc\services
ファイルが書き込み可能であること。
ドメインにログオン可能であること。

%windir% は Windows のインストールディレクトリです。

注記：メイン サーバーと追加サーバーは 1 つのドメイン環境にインストールする必要があります。

追加 Windows サーバーをインストールするには、以下の手順を行います。

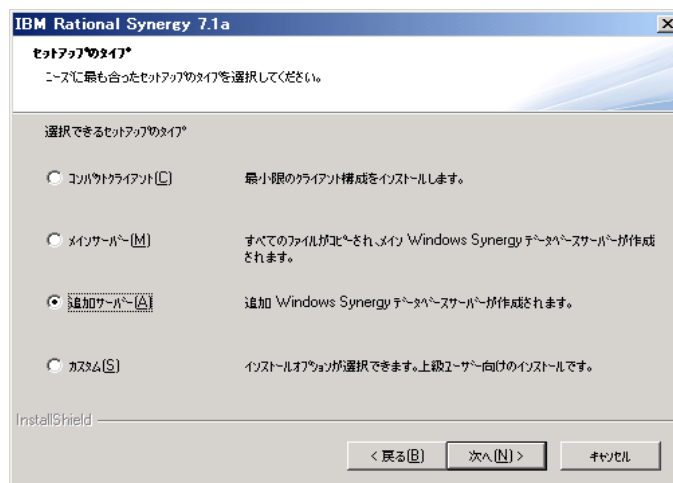
1. Windows ドメインにログオンします。
2. Rational Synergy インストーラを開始します。

- DVD からインストールする場合は、Rational Synergy Windows サーバーが含まれている DVD を DVD ドライブに挿入します。Windows タスクバーで**スタートボタン**を右クリックし、ショートカットメニューを表示します。**エクスプローラ**をクリックし、Windows エクスプローラを開きます。
DVD_drive: ¥win_servers¥synergy_server に移動し、**setup.exe** をダブルクリックして、**ウェルカム**ダイアログボックスを表示します。
- ダウンロードからインストールする場合は、インストーラの .exe ファイルをダブルクリックして**ウェルカム**ダイアログボックスを表示します。

注記：Rational Synergy または Informix のインストールをすでに行っていた場合は、警告ダイアログが表示されます。かまわず続行すると、新しいインストールが現在インストールされている Rational Synergy または Informix を上書きします。

3. **次へ**をクリックして、**ソフトウェアライセンス情報**（使用許諾契約）ダイアログボックスを表示します。ライセンス条項を確認して同意します。
4. **次へ**をクリックして、**インストール先の選択**ダイアログボックスを表示します。デフォルトのインストール場所を受け入れるか、**参照**ボタンをクリックして、別の場所を指定できます。
5. **次へ**をクリックして、**セットアップのタイプ**ダイアログボックスを表示します。

ドメイン ユーザーであり、ローカルアドミニストレータ グループのメンバーである場合、**セットアップのタイプ**ダイアログボックスが表示されます。



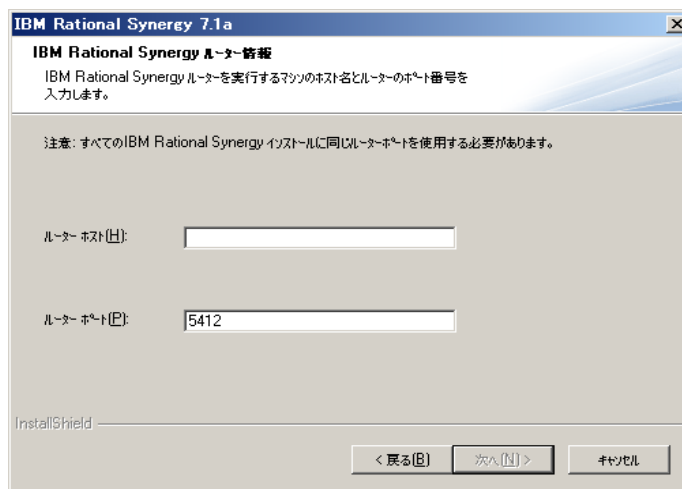
6. **セットアップのタイプ**ダイアログボックスで、**追加サーバー**ボタンをクリックします。
7. **informix** パスワードダイアログで、**informix** ユーザーのパスワードをパスワードフィールドに入力し、**パスワードの確認**フィールドにもう一度入力します。
8. **次へ**をクリックして、**メイン Windows サーバー情報**ダイアログボックスを表示します。

メイン Windows サーバー情報ダイアログボックスで、メイン Rational Synergy データベース サーバーのマシン名を入力します。



9. 次へをクリックし、以下のいずれかの手順を行います。
 - **IBM Rational Synergy ルーター情報**ダイアログボックスが表示されたら、ステップ 10 に進みます。
 - **Informix 情報**ダイアログボックスが表示された場合は、インストールプログラムがメインサーバーマシンからルーターポート番号を決定しています。ステップ 11 の b に進みます。
 - **Informix データベース サーバー情報**ダイアログボックスが表示された場合は、インストールプログラムがメインサーバーマシンからルーターポート番号と *informix* ポート番号を決定しています。ステップ 13 に進みます。
10. 必要に応じて、適切なフィールドにルーターのホスト名とポート番号を入力します。デフォルトでは、Rational Synergy ルーターは 5412 を使用します。

ポート番号はルーター マシンで指定したものと同一である必要があります。デフォルトでルーター マシンはメインサーバーになります。

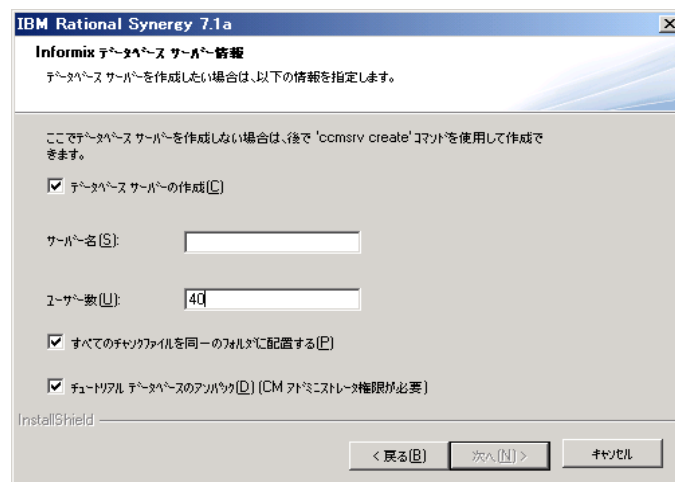


11. 次へをクリックし、以下のいずれかの手順を行います。
 - a. **Informix 情報**ダイアログボックスが表示されない場合は、インストールプログラムが *informix* ポート番号を検知して決定しています。ステップ 13 に進みます。
 - b. Informix が使用するデフォルトのポート番号 (1526) がすでに使用されている場合は、**Informix 情報**ダイアログボックスの **Informix ポート**フィールドでポート番号を変更します。ポート番号 1526 が使用可能かどうか不確かな場合は、ディレクトリ `%windir%\System32\drivers\etc\services` の `Services` ファ

イルを参照してください。詳細については、27 ページの「Services ファイルの確認」を参照してください。



12. 次へをクリックして、**Informix データベース サーバー情報** ダイアログボックスを表示します。
13. **Informix データベース サーバー情報** ダイアログボックスで設定を行います。



データベース サーバー ダイアログボックスのデフォルト設定は、あくまで例として提示しています。ダイアログのデフォルト設定をベースに 22 ページの「メインおよび追加 Windows サーバー用の領域要件」で計画した設定を行ってください。このセクションを完了していない場合は、これらのダイアログでの設定を行う前に、このセクションでの計画を完了してください。

- 旧リリースからのアップデートの場合は、**データベース サーバーの作成**を選択しないでください。その他の場合はすべて、このチェックボックスを選択します。

データベース サーバーの作成を選択しない場合、新しく Informix ソフトウェアをインストールしますが新しいデータベース サーバーは作成されません。

注意！ 同じマシンで旧リリースからアップグレードする場合、**データベース サーバーの作成**を選択すると、古いチャンク ファイルが上書きされる場合があります。これによってデータ損失する可能性があります。詳細については、現在のインストールに関連するアップグレード手順を参照してください。これらの手順は、1 ページの「旧リリースからのアップグレード」で説明されているとおりに使用できます。

- データベース サーバーを作成する場合、**サーバー名**フィールドにサーバー名を入力します。あるいは、デフォルトのコンピュータ名を使用できます。
- Windows サーバー領域計画をベースに**ユーザー数**フィールドに適切なユーザー数を入力します。
- デフォルトでは、**すべてのチャンク ファイルを同一のフォルダに配置する**が選択されます。同じディレクトリにチャンク ファイルを格納したい場合は、この設定のままにします。そうでない場合は、このチェックボックスの選択を解除します。詳細については 22 ページの「メインおよび追加 Windows サーバー用の領域要件」のワークシートの「インストール エリアの構成」を参照してください。

チャンク ファイルについて学習するには『IBM Rational Synergy 管理者ガイド Windows 版』の「データベース サーバーの作成」を参照してください。

14. **次へ** をクリックして、**データベース サーバー情報の作成**ダイアログボックスを表示します。

注記： データベース サーバーを作成する場合（ステップ 13 を参照）、サーバーの作成によって既存の onconfig ファイル、SQLHOSTS レジストリ エントリ、または

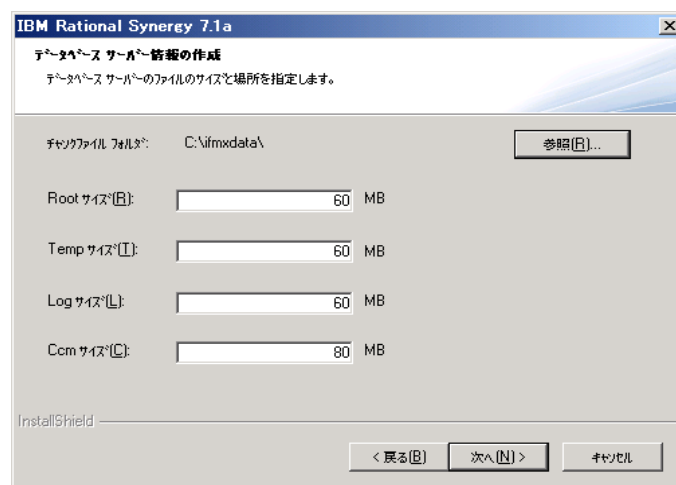
Informix データベース チャンク ファイルが上書きされることを警告するメッセージが表示されます。**OK** をクリックして、**Informix データベース サーバー情報** ダイアログボックスを表示します。

15. ステップ 13 で、**すべてのチャンク ファイルを同一のフォルダに配置する** を選択し、チャンク ファイルへの領域の割り当て方法がわからない場合は、26 ページの「ディスク領域注意事項」の手順に従ってください。

注意！ チャンク ファイルをデータベースサーバーに作成した後はファイルを移動しないでください。移動すると、データベース サーバーは動作しなくなり、データを失う可能性があります。

チャンク ファイルを同じフォルダに保存するには、以下の手順を行います。

- a. **データベース サーバー情報の作成** ダイアログボックスで、デフォルトの場所として `drive:¥ifmxdata¥` を受け入れるか、**参照** ボタンをクリックして別の場所を指定します。



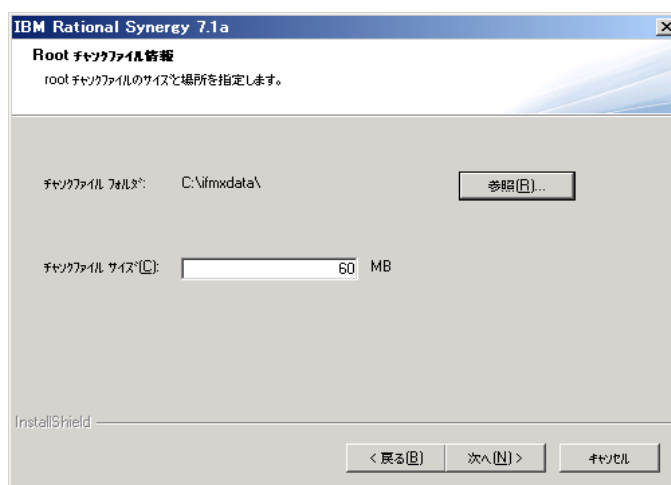
- b. デフォルトを変更する必要がある場合、dbspaces のサイズを **Root サイズ**、**Temp サイズ**、**Log サイズ**、**Ccm サイズ**に入力してください。各 dbspace のサイズを計算する方法については、『IBM Rational Synergy 管理者ガイド Windows 版』の「データベース サーバーの作成」を参照してください。

- c. **次へ**をクリックして、**UNIX IBM Rational Synergy** サーバーへの接続ダイアログボックスを表示します。62 ページのステップ 16 に進んでください。

チャンク ファイルを別フォルダに保存するには、以下の手順を行います。

- a. **Root チャンク ファイル情報**ダイアログボックスで、デフォルトの場所として `drive:\ifmxdata\` を受け入れるか、**参照**ボタンをクリックして別の場所を指定します。

注意！ チャンク ファイルをデータベースサーバーに作成した後はファイルを移動しないでください。移動すると、データベースサーバーは動作しなくなり、データを失う可能性があります。

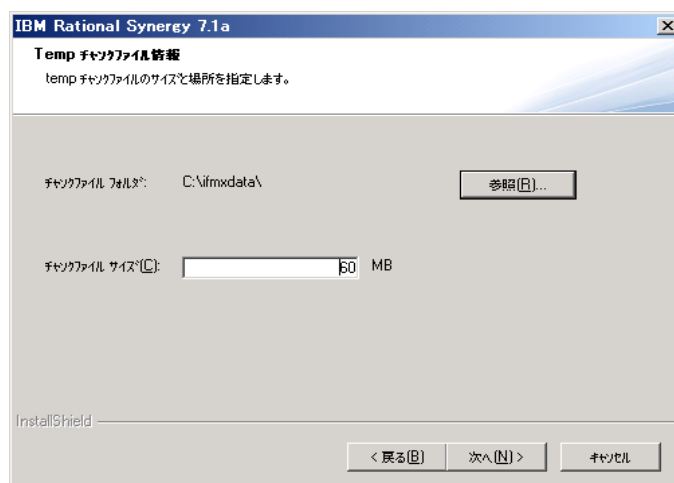


- b. デフォルトを変更する必要がある場合は、チャンク ファイルのサイズを **チャンク ファイル サイズ**フィールドに入力します。

以下のダイアログで要求される 4 つの `dbspace` サイズ (`rootdbs`、`tempdbs`、`log`、`ccm`) の計算方法については、『IBM Rational Synergy 管理者ガイド Windows 版』の「データベースサーバーの作成」を参照してください。

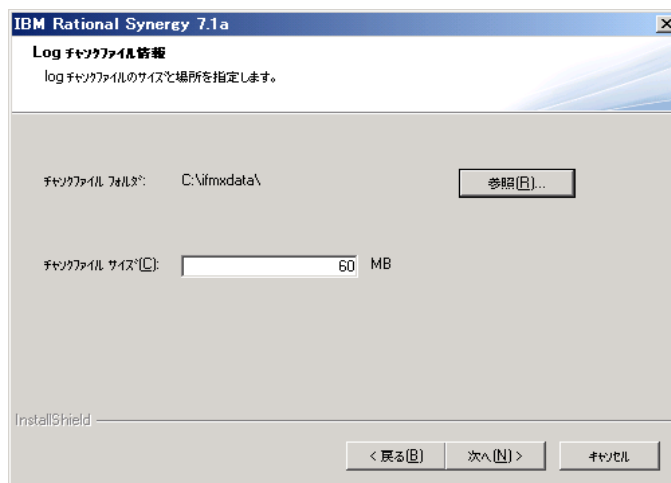
- c. **次へ**をクリックして、**Temp チャンク ファイル情報**ダイアログボックスを表示します。

注記：チャンク ファイルがすでに指定ディレクトリに存在する場合、これらのファイルが上書きされることを警告するダイアログボックスが表示されます。

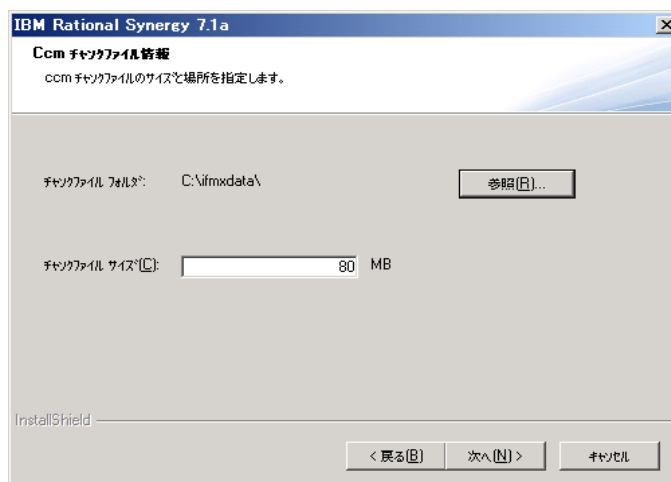


- d. **Temp チャンク ファイル情報**ダイアログボックスで、デフォルトの場所として `drive:\ifmxdata\` を受け入れるか、**参照**ボタンをクリックして別の場所を指定します。
- e. デフォルトを変更する必要がある場合は、チャンク ファイルのサイズを **チャンク ファイル サイズ**フィールドに入力します。

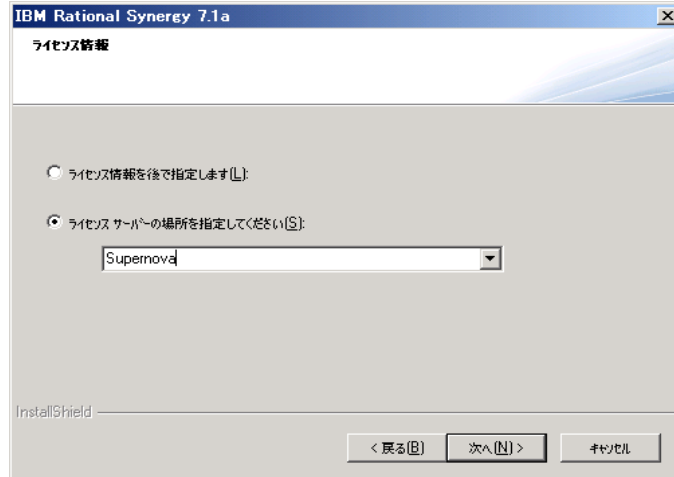
- f. **次へ**をクリックして、**Log チャンク ファイル情報**ダイアログボックスを表示します。



- g. **Log チャンク ファイル情報**ダイアログボックスで、デフォルトの場所として `drive:¥ifmxdata¥` を受け入れるか、**参照**ボタンをクリックして別の場所を指定します。
- h. デフォルトを変更する必要がある場合は、チャンク ファイルのサイズを**チャンク ファイル サイズ**フィールドに入力します。
- i. **次へ**をクリックして、**Ccm チャンク ファイル情報**ダイアログボックスを表示します。



- j. **Ccm チャンク ファイル情報**ダイアログボックスで、デフォルトの場所として `drive:¥ifmxdata¥` を受け入れるか、**参照** ボタンをクリックして別の場所を指定します。
 - k. デフォルトを変更する必要がある場合は、チャンク ファイルのサイズを **チャンク ファイル サイズ** フィールドに入力します。
 - l. これでチャンク ファイルを別のディレクトリに保存する設定が完了しました。**次へ** をクリックして、**UNIX IBM Rational Synergy** サーバーへの**接続**ダイアログボックスを表示します。
16. クライアントを UNIX サーバーに接続したい場合は、**UNIX IBM Rational Synergy** サーバーへの**接続**を選択します。そうでない場合は、このチェックボックスの選択を解除します。
- ステップ 16 で **UNIX IBM Rational Synergy** サーバーへの**接続**を選択した場合は、UNIX インストールパス（例、`/usr/local/ccm71a`）を **CCM_HOME** ボックスに入力します。選択しなかった場合は、このチェックボックスを選択解除したままにします。
17. **ライセンス情報**ダイアログボックスが表示されたら、適切なライセンスオプションを選択します。



ライセンス情報の取得の詳細については、21 ページの「ライセンスの取得」を参照してください。

18. **次へ** をクリックして、**ファイル コピーの開始**ダイアログボックスを表示します。

- a. **現在の設定**リストをスクロールして設定を確認します。設定の変更が必要な場合は、変更したいダイアログボックスが表示されるまで**戻る**をクリックします。設定を変更した後、**ファイル コピーの開始**ダイアログボックスに戻るまで**次へ**をクリックします。
- b. すべての設定が正しければ**次へ**をクリックします。

ファイルがシステムにロードされている間、ロードの進捗状況を示すウィンドウがスクリーン中央に表示されます。

インストール プログラムの終了後に再起動するように尋ねるダイアログボックスが表示された場合は、ダイアログボックスに表示される手順に従ってインストールを完了してください。再起動が必要かどうかはインストール プログラムが判断します。

19. **完了**をクリックします。これで、Rational Synergy 追加 Windows サーバーのインストールは完了です。

すべての設定情報が、以下のログファイルに記録されます。

```
C:\¥Documents and Settings¥user¥Application Data¥IBM  
Rational¥Synergy 7.1a¥install.log.
```

データベースをアンパックして、CM アドミニストレータとして IBM Rational Synergy セッションを開始できます。しかし、IBM Rational Synergy データベースにユーザーを追加するまで、データベースを使用することはできません。

データベースのアンパック、データベースへのユーザーの追加、IBM Rational Synergy セッションの開始については、『IBM Rational Synergy 管理者ガイド Windows 版』を参照してください。

次に行うインストール

カスタム インストールを行うには、65 ページの「カスタム インストールの実行」を参照してください。

コンパクト クライアントをインストールするには、72 ページの「コンパクト クライアントのインストール」を参照してください。

自動更新プロセスのガイドライン

追加 Windows サーバーのインストールが完了したら、ユーザーは **Rational Synergy** クライアントをインストールできます。CM アドミニストレータは、すべてのユーザーに対してメールを送信して、クライアントがインストールできること、および **Windows** クライアントインストールイメージの URL を連絡します。

カスタム インストールの実行

カスタム インストールでは、インストールしたい **Rational Synergy** コンポーネントを選択できます。このオプションは上級ユーザー向けです。どのコンポーネントを選択してインストールすべきかが分からない場合は、**セットアップのタイプ**ダイアログボックスの他のオプションを使用してください。

注記: 1つのメイン サーバーを1つのサイトにインストールできます。**Windows** サーバーをインストールするには、**Informix** の **Rational Synergy** を使用するライセンスが必要です。

カスタム インストールを行う前に以下の条件を満たす必要があります。

ユーザー要件: コンパクト クライアント以外のすべてのコンポーネントをインストールできる管理者権限をもっていること。

ローカル NTFS ファイル システム パーティションへの書き込み権限を持っていること。

メインおよび追加 **Windows** サーバーすべてのコンポーネントのローカル パーティションへの書き込み権限を持っていること。

Active Directory ユーザー

OS 要件: **Readme** ファイルまたは **Rational Synergy** サポート ウェブ サイトで確認してください。

前提条件: コンパクトクライアント以外のすべてのコンポーネントをインストールするには、

`%windir%\System32\drivers\etc\services` ファイルが書き込み可能なこと。`%windir%` は **Windows** のインストールディレクトリです。

コンパクトクライアント以外の任意のコンポーネントをインストールするためには、ドメインにログインしていること。

注記: コンパクトクライアントはドメイン、ワークグループ、ローカルマシンにインストールできます。

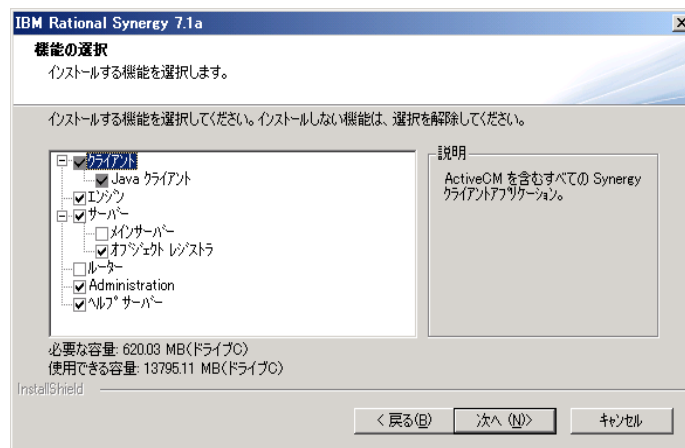
カスタム インストールを行うには以下の手順を行います。

1. 必要に応じて、**Windows** ドメインにログオンします。
2. **IBM Rational Synergy** インストーラを開始します。
 - DVD からインストールする場合は、**Rational Synergy Windows** サーバーが含まれている **DVD** を **DVD** ドライブに挿入します。**Windows** タスクバーで**スタート** ボタンを右クリックし、ショートカットメニューを表示します。**エクスプローラ** をクリックし、**Windows** エク

スプローラを開きます。

DVD_drive:¥win_servers¥synergy_server に移動し、
setup.exe をダブルクリックして、**ウェルカム**ダイアログボックス
を表示します。

- ダウンロードからインストールする場合は、インストーラの*.exe
をダブルクリックして**ウェルカム**ダイアログボックスを表示します。
3. **次**へをクリックして、**ソフトウェアライセンス情報**（使用許諾契約）ダイアログボックスを表示します。ライセンス条項を確認して同意します。
 4. **次**へをクリックして、**セットアップのタイプ**ダイアログボックスを表示します。**カスタム**をクリックします。
 5. **次**へをクリックして、**機能の選択**ダイアログボックスを表示します。



6. インストールするオプションを選択します。インストール依存関係は、階層リストを使用して示されます。つまり、論理的に一まとまりのインストール項目がグループ化されて表示されます。
7. インストールしないコンポーネントの選択を解除します。必要な領域と使用可能な領域の値を比較し、コンポーネントをインストールするのに十分な領域があることを確認してください。

不要なコンポーネントのインストールを避けるため、オプションの組み合わせについて間違いがないことを確認してください。

たとえば、管理サーバーのみをインストールする理由はほとんど考えられません。一方、メイン Windows サーバーをインストールする場合は、これらのすべてのオプションを選択するはずで

あるいは、**Rational Synergy** サーバーに多くのユーザーのエンジン プロセスによって過負荷になっている場合は、追加エンジンサーバーとして使用するシステムにエンジン コンポーネントをインストールする必要があるかもしれません。67 ページの「カスタム インストールの例：エンジン」を参照してください。

カスタム インストールの例：エンジン

注記：これは、カスタム インストールの一例です。他のオプションを使用することもできます。

カスタム インストールでエンジンをインストールするには、以下の手順を行います。

1. **機能の選択** ダイアログボックスで、**エンジン**のみを選択します。他のチェックボックスの選択をすべて解除します。
2. **次へ**をクリックして、**メイン Windows サーバー情報**ダイアログボックスを表示します。
3. **メイン Windows サーバー**フィールドに、**Rational Synergy** サーバーとなるマシン名を入力します。
4. **次へ**をクリックし、以下のいずれかの手順を行います。
 - **IBM Rational Synergy ルーター情報**ダイアログボックスが表示されたら、ステップ 5 に進みます。
 - **IBM Rational Synergy CCM サーバー情報**ダイアログボックスが表示されたら、ステップ 8 に進みます。
 - **Informix 情報**ダイアログボックスが表示された場合は、インストールプログラムがメイン サーバー マシンからルーター ポート番号を決定しています。ステップ 9 に進みます。
 - **ファイル コピーの開始**ダイアログボックスが表示された場合は、インストールプログラムがメインサーバーマシンからルーター ポート番号と *informix* ポート番号を決定しています。ステップ 11 に進みます。
5. 必要な場合、適切なボックスにルーターのホスト名とポート番号を入力します。
6. デフォルトでは、**Rational Synergy** ルーターは 5412 を使用します。ポート番号はルーター マシンで指定したものと同じである必要があります。デフォルトでルーター マシンはメインサーバーになります。
7. **次へ**をクリックし、以下の 1 つを行います。
 - **IBM Rational Synergy CCM サーバー情報**ダイアログボックスが表示されたら、ステップ 8 に進みます。

- **Informix 情報**ダイアログボックスが表示されたら、ステップ 9 に進みます。
 - **ファイル コピーの開始**ダイアログボックスが表示された場合は、インストールプログラムが *informix* ポート番号を決定しています。ステップ 11 に進みます。
8. **IBM Rational Synergy CCM サーバー情報**ダイアログでは、ヘルプ サーバー ポート番号を変更できます。CCM サーバーは、CCM サーバーは、すべてのウェブモードとトラディショナルモードの Rational Synergy GUI セッションに対してオンラインヘルプ ページを提供するウェブ サーバーです。Rational Synergy にはルーター ホストシステムで稼働する 1 つのプライマリサーバーが必要です。
- デフォルトのヘルプ サーバー ポート番号 (8400) がすでに使用されている場合は、**サーバー ポート**フィールドでポート番号を変更します。ポート番号 8400 が使用可能かどうか不確かな場合は、ディレクトリ `%windir%\System32\drivers\etc\services` の **Services** ファイルを参照してください。詳細については、27 ページの「**Services ファイルの確認**」を参照してください。
9. **次へ**をクリックして、**Informix 情報**ダイアログボックスを表示します。
- Informix が使用するデフォルトのポート番号 (1526) がすでに使用されている場合は、**Informix 情報**ダイアログボックスの **Informix ポート**フィールドでポート番号を変更します。
- ポート番号 1526 が使用可能かどうか不確かな場合は、ディレクトリ `%windir%\System32\drivers\etc\services` の **Services** ファイルを参照してください。詳細については、27 ページの「**Services ファイルの確認**」を参照してください。
10. **次へ**をクリックして、**ファイル コピーの開始**ダイアログボックスを表示します。
11. **ファイル コピーの開始**ダイアログボックスで、**現在の設定**リストをスクロールして設定を確認します。設定の変更が必要な場合は、変更したいダイアログボックスが表示されるまで**戻る**をクリックします。設定を変更した後、**ファイル コピーの開始**ダイアログボックスに戻るまで**次へ**をクリックします。
12. **次へ**をクリックします。
- 進捗表示ウィンドウに、インストールの進捗状況が示されます。
- ファイルがシステムにロードされると、**InstallShield** ウィザード完了ダイアログボックスが表示されます。
13. **完了**をクリックします。これで、Rational Synergy エンジンのインストールは完了です。これで、このマシンはエンジンをローカルに実行するか、

他のマシンで Rational Synergy クライアントを実行している複数ユーザーのエンジンサーバーとして利用可能になりました。

注記：すべての設定情報が、ログファイルに記録されます。

```
C:\Documents and Settings\user
\Application Data\IBM Rational
\Synergy 7.1a\install.log
```

次に行うインストール

追加サーバーをインストールするには、51 ページの「追加 Windows サーバーのインストール」を参照してください。

コンパクト クライアントをインストールするには、72 ページの「コンパクトクライアントのインストール」を参照してください。

サーバー ソフトウェアのインストール後

クライアント インストールの自動アップグレード

同じリリースのクライアント インストールにプッシュ形式で更新を適用できます。たとえば、パッチでメインサーバーを更新した後で、各ユーザーにクライアントインストールをサーバーと同じレベルにアップグレードさせることができます。

ユーザーが Windows 上で Rational Synergy を起動すると、製品を更新する必要があるという内容の通知メッセージがユーザーに送信されます。その後は以下のような手順になります。

- 更新することをユーザーが決定すると、更新インストーラがサーバーからダウンロードされて起動されます。更新が完了した時点で、ユーザーはクライアントを再起動できます。
- 更新しないことをユーザーが決定すると、サーバーと異なるバージョンのためクライアントを再起動できないというメッセージがユーザーに送信されます。

ユーザーが Windows の -nogui モードで Rational Synergy を起動すると、製品を更新する必要があるという内容の通知メッセージがユーザーに送信されます。クライアントは処理を続行できないため、更新を手動でインストールする必要があります。

6

クライアントのインストール

ネットワーク上に Rational Synergy Windows サーバーがインストールされた後で、Rational Synergy クライアントをインストールできます。

Rational Synergy クライアント

ユーザーは、以下の手順で Rational Synergy Windows クライアントをインストールできます。

- CM アドミニストレータから提供された URL からインストールする。71 ページの「自動更新プロセスのガイドライン」を参照してください。
- コンパクト クライアントをインストールする。72 ページの「コンパクト クライアントのインストール」を参照してください。
- 複数の Rational Synergy クライアントをインストールする。

自動更新プロセスのガイドライン

メイン Windows サーバーのインストールが完了したら、ユーザーは Rational Synergy クライアントをインストールできます。CM アドミニストレータは、すべてのユーザーに向けて、クライアントのインストールが必要であることと、Windows クライアントのインストール イメージにアクセスするための URL を連絡します。

コンパクト クライアントのインストール

コンパクト クライアントをドメイン、ワークグループ、またはローカル マシンにインストールできます。コンパクト クライアントのインストールを行うと、**Rational Synergy** と **Synergy Classic** の二つのグラフィカル ユーザー インターフェイスがインストールされます。

コンパクト クライアントをインストールする前に以下の条件を満たす必要があります。

ユーザー要件： ローカル アドミニストレータ グループのメンバーであること。

OS 要件： Readme ファイルまたは **Rational Synergy** サポート ウェブ サイトで確認してください。

前提条件： なし

注記: **Rational Synergy Windows** クライアント ソフトウェアをインストールする前に、**TCP/IP** プロトコルサポートがインストールされて有効になっていることを確認してください。**Windows** システムはこのプロトコルと一緒に提供されません。

コンパクトクライアントは、ダウンロード可能なインストール機能または自動更新機能を使用する場合にインストールされます。ダウンロードを開始するには、**Rational Synergy CCM** サーバーを識別する **URL** を指定する必要があります。ここが、インストールを提供する場所となります。**CCM** サーバーは、すべてのウェブモードとトラディショナルモードの **Rational Synergy GUI** セッションに対してオンラインヘルプ ページを提供するウェブ サーバーです。**URL** のフォーマットは、以下のとおりです。

`http://hostname:port_number/install.html`

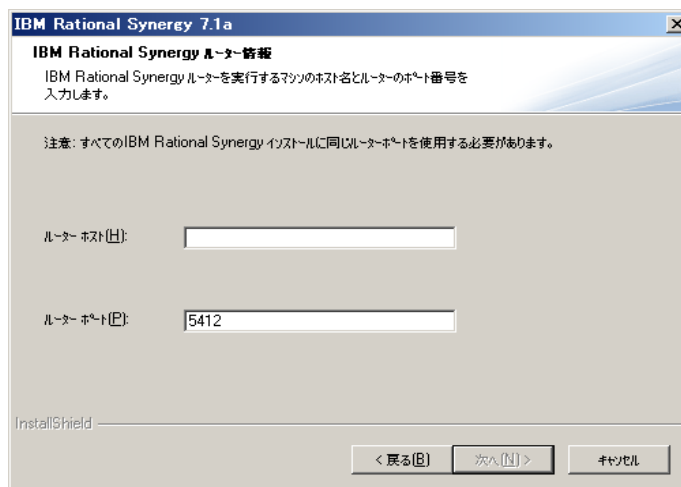
`hostname` は、サーバーがインストールされているマシンのホスト名、`port_number` は、**CCM** サーバーのポート番号です。

CM アドミニストレータは、ダウンロードを行ってコンパクト クライアントのインストールを実行するユーザーに、この **URL** を提供する必要があります。**Windows** サーバーの更新後にユーザーがそのクライアント インストールを更新すると、接続は自動的に確立されます。自動更新の詳細については、69 ページの「クライアント インストールの自動アップグレード」を参照してください。

コンパクト クライアントをインストールするには以下の手順を行います。

1. **Windows** ドメインにログオンします。
2. **Rational Synergy** インストーラを開始します。

- DVD からインストールする場合は、Rational Synergy Windows サーバーが含まれている DVD を DVD ドライブに挿入します。Windows タスクバーで **スタート** ボタンを右クリックし、ショートカットメニューを表示します。 **エクスプローラ** をクリックし、Windows エクスプローラを開きます。
DVD_drive: ¥win_clients¥synergy に移動し、setup.exe をダブルクリックして、**ウェルカム**ダイアログボックスを表示します。
 - ダウンロードからインストールする場合は、インストーラの .exe ファイルをダブルクリックして **ウェルカム**ダイアログボックスを表示します。
 - ウェブからインストールする場合は、インストール ウェブページの URL を以下の形式で入力します。
http://hostname:port_number/install.html.
3. **次へ**をクリックして、**ソフトウェアライセンス情報** (使用許諾契約) ダイアログボックスを表示します。ライセンス条項を確認して同意します。
 4. **次へ**をクリックして、**セットアップのタイプ**ダイアログボックスを表示します。**コンパクトクライアント** を選択します。CM アドミニストレータから提供された URL からインストールしている場合は、このダイアログは表示されず、ステップ 6 のダイアログが表示されます。
 5. **インストール先のフォルダ**ダイアログボックスが表示されます。デフォルトのインストール先を受け入れるか、**変更**ボタンをクリックして場所を入力します。
 6. **次へ**をクリックして、**IBM Rational Synergy ルーター情報**ダイアログボックスを表示します。



インストールプログラムが、ルーターのポート番号をメインサーバーマシンから取得できる場合があります。

7. デフォルト設定を変更する必要がある場合は、適切なフィールドにルーターのホスト名とポート番号を入力します。

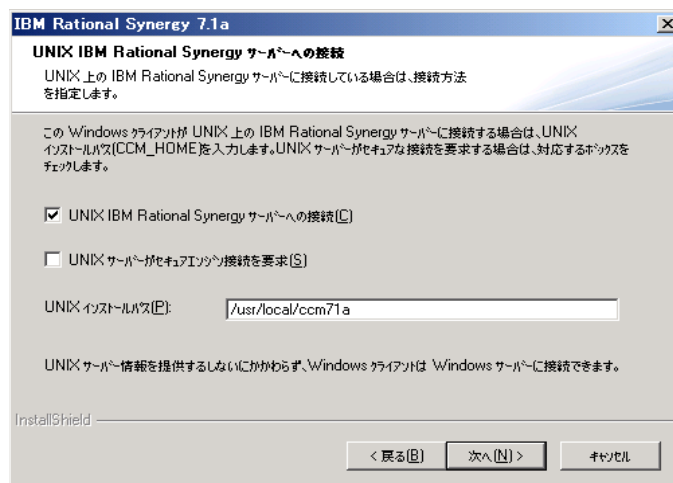
ルーターのホスト名は通常、**Rational Synergy** メイン Windows サーバーを含むマシンの名前ですが、UNIX マシンの場合もあります。デフォルトで **Rational Synergy** ルーターが使用するポート番号は 5412 です。インストールしたルーターが別のポート番号を使用している場合は、**ルーターポート** フィールドにそのポート番号を入力してください。

どのポート番号を使用すべきかが不確かな場合は、Windows ルーターマシンについてはディレクトリ

`%windir%\System32\drivers\etc\services`、UNIX ルーターマシンについてはディレクトリ `/etc/services` を参照してください。詳細については、27 ページの「Services ファイルの確認」を参照してください。

注記：ここで指定するルーターポート番号がサーバーが実際に使用しているルーターポート番号と同じであることを確認してください。

8. **次へ**をクリックして、**UNIX IBM Rational Synergy** サーバーへの接続ダイアログボックスを表示します。



9. **UNIX IBM Rational Synergy** サーバーへの接続ダイアログボックスを更新します。

- a. クライアントを UNIX サーバーに接続したい場合は、**UNIX IBM Rational Synergy** サーバーへの**接続**を選択します。そうでない場合は、このチェックボックスの選択を解除してください。
 - b. **UNIX IBM Rational Synergy** サーバーへの**接続**を選択した場合は、セキュア接続を行うかどうかを指定します。
 - c. **UNIX IBM Rational Synergy** サーバーへの**接続**を選択した場合は、UNIX インストールパスを **CCM_HOME** フィールドに入力します。
10. **次へ**をクリックして、**ファイル コピーの開始**ダイアログボックスを表示します。
 11. **現在の設定**リストをスクロールして設定を確認します。設定の変更が必要な場合は、変更したいダイアログボックスが表示されるまで**戻る**をクリックします。設定を変更した後、**ファイル コピーの開始**ダイアログボックスに戻るまで**次へ**をクリックします。
 12. デスクトップにショートカットを作成しない場合は、チェックボックスの選択を解除します。すべての設定が正しければ**次へ**をクリックします。
進捗表示インジケータ ウィンドウに、インストールの進捗状況が示されます。ファイルがシステムにロードされると **InstallShield** ウィザード完了ダイアログが表示されます。
 13. **完了**をクリックします。これで、**Rational Synergy** コンパクトクライアントのインストールは完了です。

Readme ファイルはインストール終了後でもいつでも閲覧できます。
Windows タスクバーで、**スタート > すべてのプログラム > IBM Rational > IBM Rational Tools > IBM Rational Synergy 7.1a > Read Me** をクリックします。このパスはインストール時にデフォルトプログラム フォルダにインストールしたことを前提にしています。

この段階でデータベースに定義された有効なユーザーから **Rational Synergy** セッションを開始できます。セッションを正しく開始できない場合は、CM アドミニストレータに連絡してください。

付録：特記事項

© Copyright 1992, 2009

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権（特許出願中のものを含む）を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒 106-8711

東京都港区六本木 3-2-12

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。: IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示 もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、製造元に連絡してください。

Intellectual Property Dept. for Rational Software
IBM Corporation
1 Rogers Street
Cambridge, Massachusetts 02142
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM および関連の商標については、www.ibm.com/legal/copytrade.html をご覧ください。

Microsoft および Windows、Windows 2003、Windows XP、Windows Vista、および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。
他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

索引

C

CCM サーバー 72
CCM_HOME、UNIX インストールパス
の指定 62
CCM サーバー 9

D

dbspace、説明 26

E

ESS 19

I

informix ユーザー、設定 35

L

log チャンク ファイル 46, 61

R

Rational Directory Server 9
Rational License Server TL Licensing
Guide、参照先 14
Rational Synergy
自動更新 72
ダウンロード可能なインストール
72
ドキュメント 7
Rational Synergy クライアント、説明 9
Rational Synergy サーバー、説明 9
Rational Synergy データベース、説明 10
Rational Synergy のドキュメント 7
RDS 9
Readme 1
rootdbs チャンク ファイル 44

S

Services ファイル、データ ベースサー
バー要件 27
setup プログラム
Informix データベース サーバーの
インストール 56
Informix データベース サーバーの
インストール 41
チャンク ファイルの場所 26

T

tempdbs チャンク ファイル 45, 60
temp チャンク ファイル、インストール
される場所 45

U

UNIX サーバー、指定 48, 62

あ

アップグレード
旧リリースから 1
チャンク ファイルの上書き 41, 57

い

インストール
インストールの状態 49, 63, 68, 75
ウェブを使用 72
カスタム インストール 65
コンパクト クライアント 72
コンポーネント 17
自動更新 50, 64, 69
追加サーバー 51
データベースへのユーザー追加 50,
63, 75
要件 19, 24
ルーターとライセンス マネージャ
36

う

- ウェブ 68
- ウェブモード 68, 72
- 上書き
 - Informix チャンクファイル 42, 57
 - onconfig ファイル 42, 57
 - SQLHOSTS レジストリ エントリ 42, 57
 - チャンク ファイル、アップグレード時 41, 57

え

- エンジン 11, 19, 67
- エンジン サーバー、説明 11
- エンジン スタート サービス 19

お

- オブジェクト レジストラ、説明 11
- オペレーティング システム
 - クライアント 24
 - サーバー 20

か

- カスタマ サポート 3
- カスタム インストール
 - エンジンのインストール 67
 - オプション 66
 - コンポーネントのインストール 65
- カスタム クライアント インストール 19
- 仮想メモリ、サーバー 21

き

- 技術サポート 3
- 共有クライアント インストール 19

く

- クライアント
 - 自動更新 50, 64, 69
 - 説明 9

要件 24

クライアントの自動更新 50, 64, 69

け

- 計画
 - クライアント 24
 - サーバー 19, 26
 - システム領域 25

こ

- 更新
 - クライアントのパッチ更新 69
 - クライアントへのプッシュ 64
 - 自動 50
- 互換性 2
- コンパクト クライアント
 - インストール方法 72
 - コンポーネント 17
 - 実行 18
 - 設定の概要 75

さ

- サーバー
 - クライアントの UNIX サーバー 48, 62
 - 準備 26
 - 追加サーバーのインストール 51
 - 名前 41, 57
 - 要件 21

し

- 自動更新、必要な情報 71
- 自動更新プロセス 71

す

- スタートメニュー 1

せ

- 設定情報、ログ ファイルの場所 49, 63
- 設定の概要

コンパクト クライアント 75
メイン Windows サーバー 49, 63, 68
前提条件
Rational Directory Server 9

ち

チャンク ファイル
サーバー作成時に上書き 42, 57
追加サーバー 62
場所 47
別の場所 44, 59
他の場所へ移動 26
保存 42, 43, 57, 58
注意、説明 7
注記、説明 7
チュートリアル データベース
インストール 42
ショートカットの設定 50

つ

追加サーバー
インストール 51
メインサーバーの指定 54

て

ディスク領域
クライアント 24
計画 25
サーバー 20
チャンク ファイルの場所 26
データベース サーバー、説明 10
データベース、説明 10
データベースのアンパック 15, 50, 63, 75

と

ドメイン名 33
トラディショナルモード 68, 72

は

パッチ、インストールの強制 69

ハードウェア
クライアント 24
サーバー 21

ほ

ホスト ルーター 37
ポート、ルーター 36

め

メイン Windows サーバー
UNIX サーバー接続 48, 62
クライアントの UNIX サーバーへの
接続 48, 62
作成 41, 56
設定の概要 49, 63, 68
チャンク ファイルの保存 43, 58
ルーター/ライセンス マネージャ
のインストール 36

メモリ
クライアント 24
サーバー 21

も

モード 68
ウェブ 72
トラディショナル 68, 72

ゆ

ユーザー
アップグレードの強制 50, 64
数を指定 41, 57
データベースへの追加 50, 63, 75
パッチのプッシュ 69

よ

要件
Services ファイル 27
クライアント 24
サーバー 19
用語解説 9

ら

- ライセンス ガイド、参照先 14
- ライセンス ファイル、サーバー 21
- ライセンス マネージャ
 - インストールするオプション 36
 - 説明 9

り

- 領域
 - サーバーの計画 22
 - ワークシート 22, 25
- リリース ノート 1

る

- ルーター
 - インストールするオプション 36
 - 説明 11
 - ホスト 37
 - ポート 36

ろ

- ログ
 - 設定情報 (場所) 49, 63

わ

- ワークエリア、説明 11
- ワークシート
 - クライアント領域の計画 25
 - サーバー領域の計画 22
 - 領域計画 25